

SUSTAINABILITY REPORT 2025



コンパスグループはバリューチェーン全体でパートナーをつなぎ、有意義な変化と共通の成功を実現する協働体制を推進しています。

私たちは共に、可能性を再構想し、人々に栄養価の高い食を届け、コミュニティを強化し、サプライチェーンを守り、地球環境の持続可能性に資する食料システムの構築に取り組んでいます。

02 概要

09 環境リーダーシップ

19 人の力で切り拓く未来

25 コミュニティとの協業

30 ガバナンスの実践



グループCEOからのメッセージ

サステナビリティ・レポート2025へようこそ。サステナビリティは、正しい行動であるだけでなく、事業の強靱化や競争力の向上にも寄与するものです。世界が急速に変化する中、クライアントは従来の優先順位を見直し、サプライチェーンは進化を続け、企業にはこれまで以上に環境と社会にポジティブなインパクトをもたらすことが期待されています。急速な変化は新たな課題を伴いますが、私たちがリーダーシップを発揮するチャンスももたらします。

サステナビリティは、私たちの成長戦略の中心に位置しています。すなわち、イノベーションを促進し、顧客サービスのあり方を再定義し、私たちの生活と仕事の基盤であるコミュニティを強固なものにします。コミュニティの繁栄と私たちのビジネスの繁栄は不可分です。

企業の最重要事項としてのサステナビリティ

コンパスグループのサステナビリティ戦略であるプラネット・プロミスは、私たちの歩みを今後も導いていきます。それは、食材の調達、メニュー開発、そして日々の事業運営に影響を与えています。2025年、グループ全体のスコープ1、2、3の温室効果ガス排出強度（収益成長を考慮して正規化）は、前年比で11%減少しました。また、食品ロス量を継続的に記録している事業拠点の数を10,000以上に拡大する一方で、地域コミュニティに310万食を寄付しました。こうした取り組みは着実に成果を上げていますが、依然として多くの課題が存在しています。

私たちはテクノロジーやデータを活用し、グループの事業が生み出すインパクトを次のレベルへと高めることを目指しています。ロスを最小限に抑えるAIによる予測から、排出量をリアルタイムで追跡するデジタルプラットフォームに至るまで、私たちはイノベーションを駆使し、クライアントと地球環境の双方に貢献しています。こうしたツールは、グループ全体のカーボンフットプリント削減に寄与するだけでなく、事業の効率や洞察力、競争力の向上にも寄与します。

ガバナンスと説明責任

私たちの歩みは、強固なガバナンスによって支えられています。当社では、ESGパフォーマンスを役員報酬に連動させ、サステナビリティを業績評価指標に組み込み、リーダーシップチームの関与を深めました。

説明責任と透明性は、私たちの志を測定可能な結果に確実につなげるための手段です。

従業員のエンパワーメント

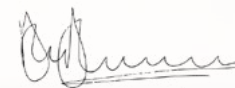
コンパスグループの事業は、クライアントや顧客に日々卓越したサービスを提供する、何千人もの献身的な個人の力によって支えられています。気候に配慮したメニューを開発するシェフや、食品ロス削減プログラムを実行に移すスタッフをはじめ、すべてのメンバーがポジティブな変化を推進する役割を担っています。とりわけ、コンパスグループの価値観を体現し、社内全体で積極的な行動を促している仲間である「プラネット・プロミスの変革者」は私の誇りです。

当社は、研修、インクルージョン、イノベーションの推進に経営資源を投入し、目まぐるしく変化する世界をリードするために必要なスキルと自信を育む機会をチームに提供しています。

これからを見据えて

私たちにはなお多くの課題が残されています。よりサステナブルな食料システムを実現するためには、私たち全員の協働と創意工夫、そしてコミットメントが欠かせません。しかし、私たちの方向性が揺らぐことはありません。グローバルな規模と地域に根ざした知見を組み合わせ、テクノロジーやデータ、パートナーシップを活用することで、よりサステナブルで、強靱かつ未来にわたって成功するビジネスを構築していきます。

これからもコンパスグループは、皆様からの信頼とパートナーシップに応えるべく、共に歩みを進めてまいります。



Dominic Blakemore
グループCEO

2025年のハイライト

2025年、コンパスグループは大きく前進し、傑出したインパクトを残すことができました。サステナブルなフードサービスを牽引し、業界から高い評価を受けるとともに、以下の実績が示すように、取り組み全体において測定可能な成果を達成しました。



フォーチュン：世界で最も賞賛される企業2025

コンパスグループPLC



EcoVadis：サステナビリティ評価 2025 ゴールドメダル

コンパスグループPLC



Ethisphere:コンプライアンス・リーダー検証

コンパスグループPLC



ニュースウィーク：アメリカで最も女性が活躍できる職場2025

コンパスグループ・アメリカ



Business Group on Health：健康・ウェルビーイング分野における優良雇用主表彰2025

コンパスグループ・アメリカ



Institute of Hospitality：最も優れた教育研修プログラム2025

コンパスグループ・英国とアイルランド（UK&I）



10,000超

食品ロス量を記録している事業拠点数

† KPMG LLPは、保証基準ISAE（UK）3000に基づき、**コンパスグループPLCの2025年度年次報告書**から抽出された特定のデータを対象として、独立した立場から限定的保証を提供しています。詳細は38ページをご覧ください。

11%

スコープ1、2、3のGHG排出強度（収益成長を考慮して正規化）の2024年対比削減率

22,000超

コンパスグループが第三者インテグリティ・デューデリジェンス（third-party integrity due diligence、TPIDD）ツールを用いてモニタリングを行った、サプライヤー、人材紹介会社、流通業者の数

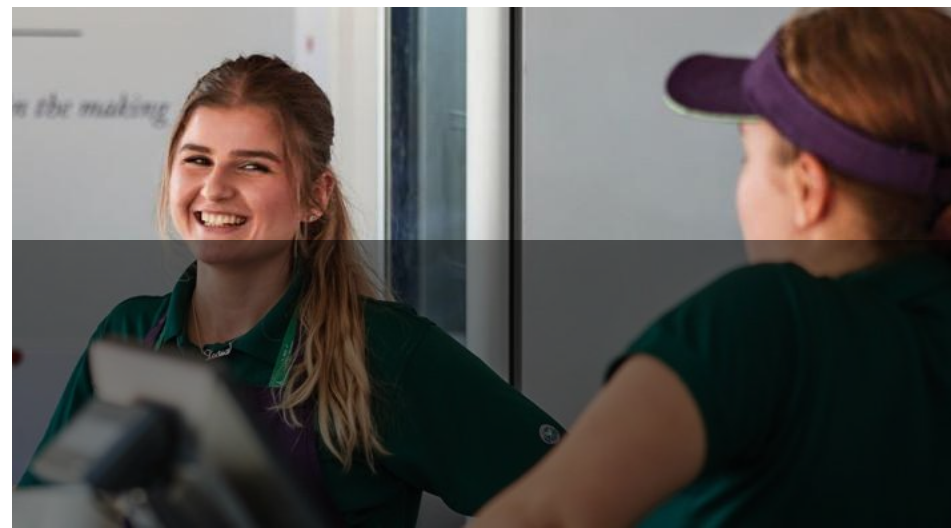
23億米ドル

2022年以降に発行されたサステナビリティボンドの金額

310万

2025年度、地域コミュニティに寄付した食事の数

森林破壊防止 方針の一層の 定着



コンパスグループ とは

コンパス グループは、世界各地で毎日数百万人もの人々にサービスを提供する、フードサービス業界のグローバル・リーダーです。私たちのビジョンは、優れた人材、卓越したサービス、そして確かな実績で評価される、世界水準の契約給食およびサポートサービスを提供する事業者となることです。

私たちは、各地域で得られた知識とグローバルな事業規模を組み合わせ、クライアントやコミュニティの多様なニーズに応える、高品質かつカスタマイズされたサービスを提供しています。

また、分権型の組織体制のもと、各チームがクライアントに近い現場で意思決定を行うことで、イノベーションやパートナーシップを強化するとともに、優れた成果を継続的に創出しています。

5つの主要セクターにまたがる多様なポートフォリオ



ビジネスと産業

私たちは、金融、法律、テクノロジー、製造業など、幅広い分野のクライアントとビジネスを行っています。



ヘルスケアと高齢者の暮らし

私たちは、医療機関と緊密に連携し、患者のケアおよび高齢者の生活の質向上に寄与する食事を提供しています。



教育

私たちは、保育施設から大学まで、学びのあらゆる段階において、健康的でバランスの取れた食事を提供しています。



スポーツとレジャー

私たちは、大規模スタジアム、会議場、美術館・博物館などでの食事、飲料、サービスの提供を通じて、特別なホスピタリティ体験をお届けしています。



防衛・オフショア・遠隔地分野

私たちは、石油・ガス、鉱業、建設分野における多くの大手企業に対し、フードサービスおよびサポートサービスを提供しています。



25^超

当社が事業を展開している国の数

PLANET
PROMISE

コンパスグループは食へのパッションを原動力に、責任ある調達を推進するとともに、食品ロスや二酸化炭素排出量の大幅な削減を通じてグローバル規模での変革を促し、人々の暮らしをより豊かにすることを目指します。また、料理の分野でイノベーションを起こし、協働とパートナーシップを通じて、すべての人にとって持続可能な未来の実現にコミットしています。

461億米ドル

2025年度の基礎収益

590,000^超

世界各国で当社が直接または間接的に雇用している人の数

サステナビリティ戦略

当社のコミットメントは、卓越したサービスの提供にとどまりません。私たちがサービスを提供する人々の安全・健康・ウェルビーイングを最優先に考え、有意義な経済的価値と社会的価値の創造に取り組んでいます。

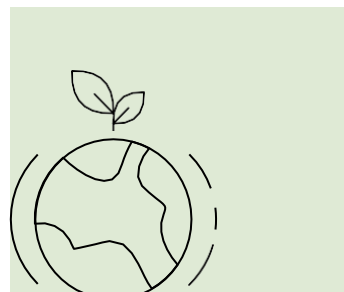
私たちは、人とコミュニティの繁栄を支えることは、同時に地球の健康を支えることでもあると認識しています。だからこそ、グループ全体のサステナビリティ戦略を取り組みの基盤とし、コンパスグループとそのステークホルダーにとってより持続可能な未来への長期的な投資を推進しています。

国連の持続可能な開発目標との整合性

私たちのサステナビリティ戦略は、平和、繁栄、地球環境の健全性を推進する国際的な枠組みである国連の持続可能な開発目標（SDGs）に基づいて策定されています。この戦略では、私たちが特に大きなインパクトを与えることができると考える9つのSDGsに注力しています。具体的には、当社の事業規模を踏まえ、フードビジネスに欠かせない優先事項である食品ロスの削減をはじめ、健康とウェルビーイングの増進、アニマルウェルフェアの向上および2050年までの気候ネットゼロの達成に向けた排出量削減の加速など、重要な分野が含まれます。

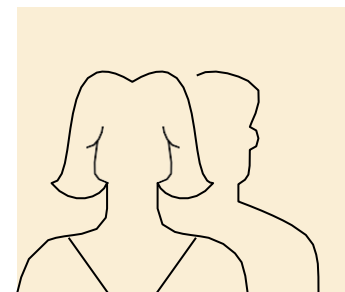


私たちの戦略は三つの柱を中心に構築されています。



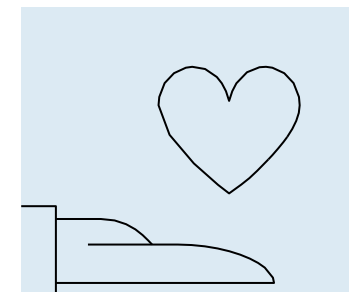
環境

地球の未来を支える強靱性を高める



人々

ケア・安全・尊重を基盤とする文化が育む、生涯にわたる機会



コミュニティ

私たちがサービスを提供するコミュニティでの豊かな暮らしの実現

マテリアリティ評価トピックとアクション

2023年、私たちは幅広い環境・社会・ガバナンス（ESG）課題に関連する財務上のリスクおよび機会への理解を深めることを目的に、マテリアリティ評価の見直しを行いました。

また、このプロセスを通じて、私たちの事業活動が社会と地球環境に与える影響についても評価を行いました。評価にあたっては、当社が事業を展開しているすべての地域において、消費者、サプライヤー、流通業者、NGO、投資家、各分野の専門家など、社内外の多様なステークホルダーと対話を行いました。その過程で得られた知見は、当社戦略の継続的な高度化に活かされ、最優先課題に注力するための指針となっています。当社は今後も重要なトピックのモニタリングを継続し、2028年のCSRD（EU企業サステナビリティ報告指令）適用に向けて、適宜見直しを図っていきます。



環境

気候変動への適応と緩和

当社グループが直接的・間接的に排出するGHG（スコープ1、2、3）の削減に取り組み、気候変動の影響に対応できるサプライチェーンを構築します。

自然と生物多様性

グループの調達活動が自然生態系に与える影響（森林の減少、水産資源の乱獲、生物多様性の損失等）を最小限に抑えるためのポリシー、基準、プログラムを策定します。

廃棄物

生産の現場から厨房まで、バリューチェーン全体で発生する食品ロス削減するとともに、事業で使用するプラスチック包装の量を減らし、可能な限りサステナブルな代替品を導入します。



社会

インクルーシブな人材採用と定着

従業員が成果を上げ、尊重される環境を整備するとともに、事業拠点のあるコミュニティを反映した多様でインクルーシブな職場環境を構築します。ここでは、公正な労働条件と適切な賃金の提供が含まれます。

健康・安全・ウェルビーイング

グループ全体で、健康・安全・ウェルビーイングを尊重する企業文化を醸成します。

労働者の権利

事業活動の中で人権の擁護に努め、常に公正に、相手の尊厳を尊重して他者に接します。

バリューチェーンで働く人

グループ各社のサプライチェーンにおいて、倫理原則、人権、労働基準を推進します。

食材の透明性

消費者に正確な製品情報を提示し、あらゆる製品クレームに確実に対応します。

サステナブルでヘルシーな食事

グループ各社において、サステナブルで高品質な食材を使い、消費者に評価されるヘルシーなメニューを提供します。

食品安全

事業全体で食の安全を重視する文化を推進し、従業員の意思決定、活動、行動を導きます。



ガバナンス

企業倫理・誠実性

企業行動規範（CBC）やグループの各種ポリシー（ビジネス・インテグリティ・ポリシー（BIP）を含む）を遵守し、倫理・誠実性（E&I）プログラムを世界各地で展開します。

贈収賄・汚職の防止

誠実性を重視する企業文化を維持し、E&Iプログラムや、秘密厳守の報告制度、SpeakUp, We're Listeningのヘルプラインおよびウェブプラットフォームを通じて、この力強い文化を促進します。特に、新たなリスクやインシデントの防止、検知、対応のほか、必須研修や啓発プログラムに力を入れます。

サイバーセキュリティ¹

サイバーリスクを評価し、社内のエンタープライズ・インフラ、プラットフォーム、セキュリティ・コントロールの成熟度を監視・管理します。適切な危機管理手順を整備し、AIの利用には原則ベースのルールを適用します。

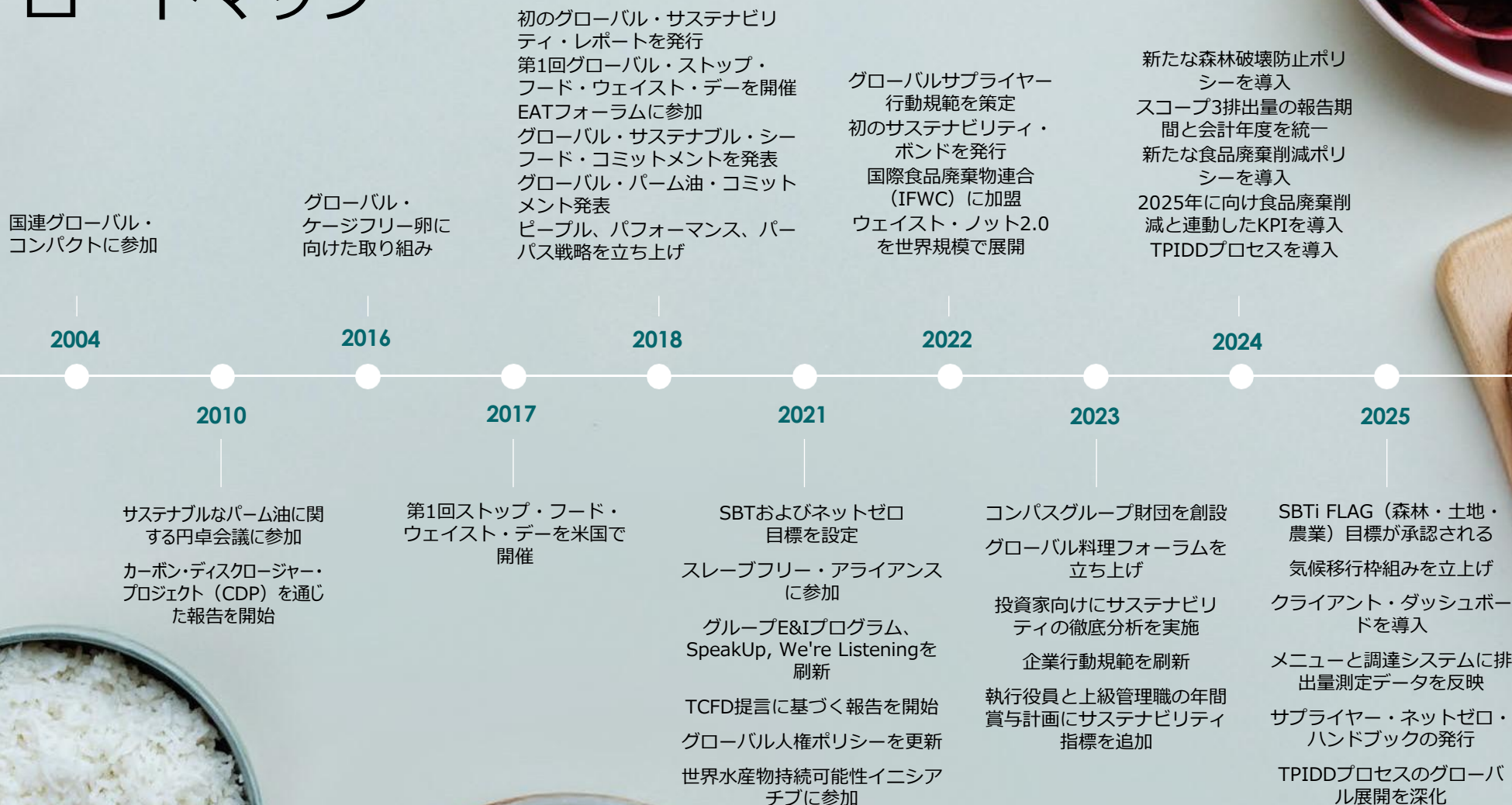
1. 昨年、サイバーセキュリティに含まれていたデータプライバシーを、ビジネス倫理と誠実性に関するリスクの一部として位置付けています。

バリューチェーン全体にわたるステークホルダーのエンゲージメント

私たちは、戦略の実行や意思決定の高度化および目標に沿った成果の実現に向け、バリューチェーンに関わるすべてのステークホルダーと緊密に連携しています。この協働的アプローチは、イノベーションを促進し、卓越性を高めるとともに、知見の共有と説明責任の明確化を通じて、リスクの低減にも寄与しています。



コンパスグループの ロードマップ



環境リーダーシップ

フードサービスのグローバル・リーダーとして、当社には、よりサステナブルな食料システムの構築を実現する責任と機会があります。

サプライヤー、クライアント、消費者をつなぐことで、低炭素で自然に優しい未来の実現に向けた取り組みを加速しています。

テクノロジーとデータは、その進展を後押ししています。排出量や食品ロスをリアルタイムで把握することから、調達やエネルギー利用の最適化に至るまで、イノベーションはよりスマートな意思決定を可能にし、バリューチェーン全体における環境負荷の低減と強靱性の向上に貢献しています。

環境リーダーシップを当社の戦略に組み込むことによって、測定可能な進展を促し、資源の保全を図り、自らの事業とサービスを提供するコミュニティに長期的な価値を生み出しています。



進捗状況

2050年までの気候ネットゼロ達成に向けて

これからの「食」は、気候変動に対応し、公平で、強靱であるべきだという考えのもと、コンパスグループは、サステナビリティを事業運営に組み込み、イノベーションを推進しています。また、バリューチェーン全体にわたるパートナーシップを通じて、人と地球にとってより良い未来の実現を目指し、業界をリードしています。

当期の進捗状況

当社のスコープ 1、2、3 排出量を対象としたGHG排出強度（収益成長を考慮して正規化）は、2024 年比で11%減少しました。これは絶対排出量で2%の削減に相当します。こうした削減の一部は、クライアントの厨房における排出量算定手法の高度化によるものです。具体的には、ロケーションごとに算出された、より精緻な排出係数とインフレ調整後の換算係数を適用しています。

2050年目標の達成可能性を高めるため、当社は以下の三つの戦略軸に基づく気候移行フレームワークを策定し、事業運営の指針としています。

- サプライチェーン
- 事業活動
- クライアントと消費者

当社は、2050 年までに気候ネットゼロの達成を目指し、サステナビリティ関連の取り組みを進めるとともに、これからも進捗状況を継続的に追跡・測定していきます。

スコープ1、スコープ2

スコープ1、2排出量に限れば、当社のGHG強度は前年比で4%減少しました。買収活動により絶対排出量は増加しているものの、こうした排出量は当社の総排出量のわずか2%にとどまっています。

グループ全体のスコープ 1、2排出量の大部分は、米国の Canteen社の自動販売事業を支える冷蔵トラックによるものです。冷蔵機能を備えた完全電動車両の技術は現在も発展段階にあり、ビジネスとして成り立たせるために必要な規模での実用化には至っていません。それでも当社は、開発の動向を注視し、商用化の段階に到達し次第、実行可能なソリューションの導入を加速できるよう、車両メーカーと緊密に連携しています。

それに並行して、当社は再生可能電力への移行や現場におけるエネルギー効率の向上、配送ルート最適化による燃料消費の抑制などの取り組みを通じて、事業活動から直接排出される二酸化炭素の削減に継続的に取り組んでいます。これにより、測定可能な効率改善を実現するとともに、低炭素イノベーションの幅広い普及によるメリットをグループに取り込むための体制を整えています。

スコープ3

コンパスグループのGHG総排出量の98%は、スコープ3に由来しています。こうした排出量の削減は複雑なプロセスが伴い、質の高いデータに加え、サプライヤーやパートナーとの緊密な連携と責任の共有が不可欠となります。

この取り組みを強化するため、当社は、食品業界や農業分野を専門とする大手炭素管理コンサルティング会社との協業を今後も継続していきます。このパートナーシップにより、データの精度向上に加え、サプライヤー・エンゲージメントの深化が進み、原材料、物流、包装といった主要カテゴリーにおいて、最も効果的な戦略軸を特定することが可能になっています。

2025年には、スコープ3排出量の報告対象をカナダまで拡大し、現在では、グループ全体の収益の85%を占める5つの市場が対象となっています。データ品質の向上を受け、当社は数量ベースの報告手法への移行を進めており、報告期間を通じた精度、透明性、比較可能性の向上を図っています。2025年のスコープ3総排出量は、11,674,889 + tCO₂eでした。

気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）

強固なガバナンスが、当社の気候変動の基盤となっています。当社はTCFDの提言に沿い、2025年度年次報告書において、気候関連のリスクと機会に関して詳細な情報開示を行いました。この整合性により、移行リスクと物理的リスクの管理状況や、強靱性向上への投資および長期的に持続可能な成長に向けた当社の取り組みについて、ステークホルダーが明確に把握できる体制を整えています。

† KPMG LLPは、保証基準ISAE（UK）3000に基づき、[コンパスグループPLCの2025年度年次報告書](#)から抽出された特定のデータを対象として、独立した立場から限定的保証を提供しています。詳細は38ページをご覧ください。

気候目標



気候ネットゼロ

2050年までにバリューチェーン全体で達成



46%削減

スコープ1、2GHGガス排出の絶対量を2030年までに



28%削減

購入する食品・飲料のスコープ3GHG排出量の絶対値を2030年までに



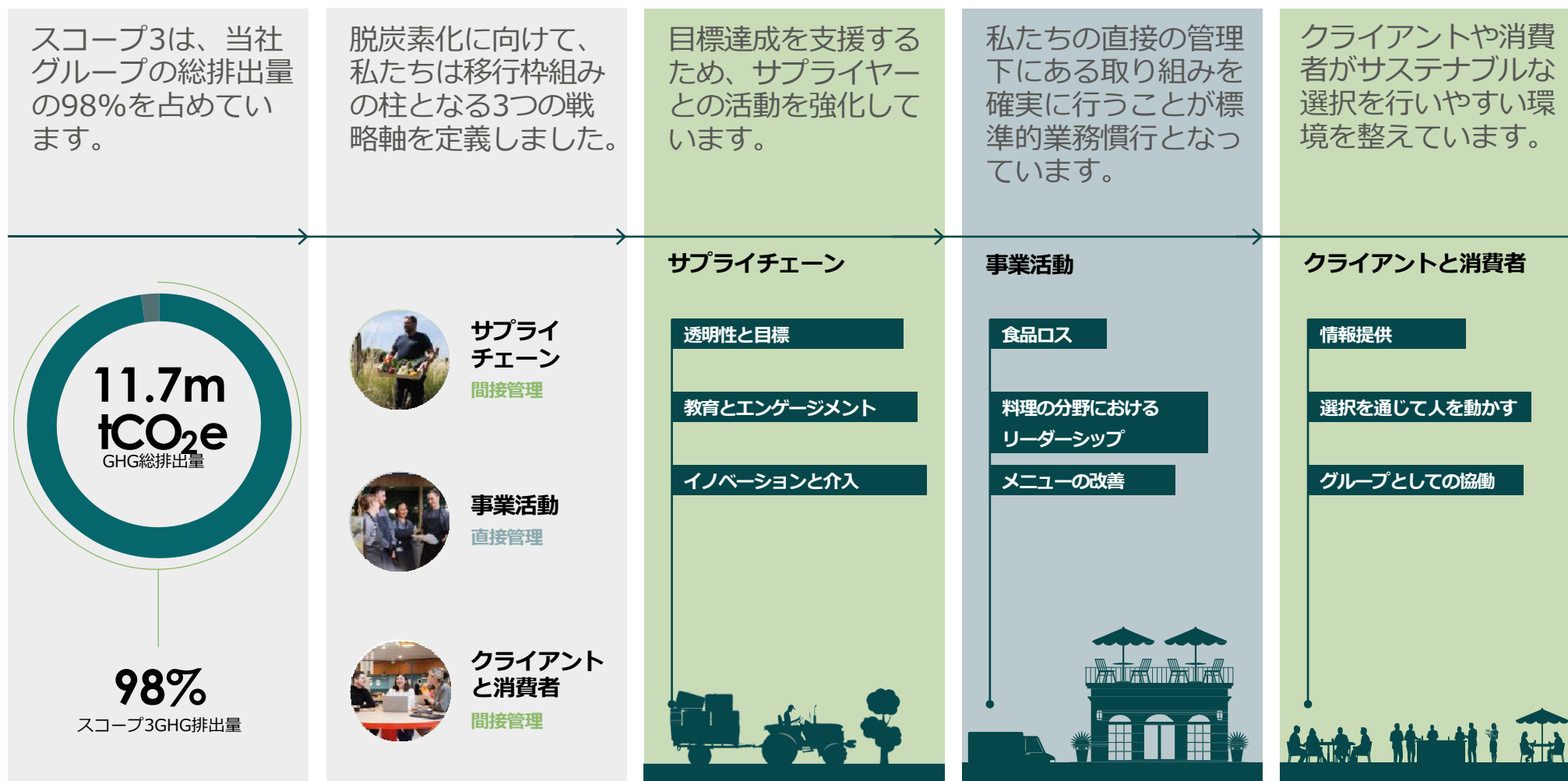
SBTi認定目標

2030年までの中間目標、2050年気候ネットゼロおよびFLAGに関するコミットメント



コンパスグループの気候移行枠組み

グループ全体で脱炭素化に向けてバランスの取れたアプローチを実現することを目的として設計されています。



† KPMG LLPは、保証基準ISAE（UK）3000に基づき、[コンパスグループPLCの2025年度年次報告書](#)から抽出された特定のデータを対象として、独立した立場から限定的保証を提供しています。詳細は38ページをご覧ください。

サプライヤーのエンゲージメント

協働を通じ、測定可能なスコープ3排出削減へと変革しています。

コンパスグループは、バリューチェーン全体にわたる真の協働によってこそ、サステナビリティを実現することができると考えています。

そのため、グループ各社はサプライヤーにカーボンデータの提供を求めるだけでなく、排出量の削減と測定可能な進展の実現に向けて、サプライヤーとの協業を積極的に推進しています。こうした現場主導のアプローチは、フードサービス業界における新たな基準を確立しつつあり、すでにサプライチェーンの強化という形で成果を上げています。

気候ネットゼロの実現に向けた歩みをさらに加速するため、当社は「サプライヤー・ネットゼロ・ハンドブック」を導入し、脱炭素化に向けて、私たちの事業部門がサプライヤーと体系的に関わるためのアプローチを提供しています。サプライチェーン全体での協働を促進し、集団的な行動を促すことで、サプライヤーがコンパスグループとともに有意義な変化を推進することのできる環境を整えています。

コンパスグループ・アメリカ、スコープ3対策のスマート化に向けて協働を推進

2025年、コンパスグループ・アメリカは、これまで築いてきた強固な基盤をさらに発展させ、対象範囲の拡大、手法の高度化および取り組みの実効性向上を図りました。その一環として、50社を超えるサプライヤーと連携し、製品レベルでのLCAを行いました。これらの知見を踏まえ、コンパスグループ・アメリカは、業界平均に依拠する従来の手法から脱却し、排出量、購買、原材料などに関する意思決定を製品レベルで管理できるようになりました。

これは、ユーザーフレンドリーであることに加え、脱炭素化の進捗段階を問わず、サプライヤーから提供されるさまざまなデータポイントに柔軟に対応することを可能にするテクノロジーを活用することで、大規模に実現されました。この規模でのサプライヤー・エンゲージメントは、業界でも抜kindで取り組みであり、今後のさらなる進展に向けた強固な基盤の構築にも寄与しています。

当社のクライアントにとって、その価値は明白です。これにより、クライアントは大きな負担を負うことなく、よりサステナブルで低炭素なサプライチェーンの恩恵を享受することができます。さらに、各グループ会社は、業界の平均値ではなくサプライヤーごとのデータを活用しているため、実現される削減効果は実効性が高く、各クライアントの特性に応じて最適化されたものとなります。

サプライヤー・エンゲージメントは、コンパスグループで調達事業を担うFoodbuyを通じて各事業のオペレーションに完全に組み込まれており、大手炭素管理コンサルタントが提供する排出量に関するインテリジェンスによって支えられています。私たちは、志を掲げるだけでなく、協働こそがスコープ3排出量の削減を推進する鍵であることを実証しています。

Future Forwardプログラム関連イベント

コンパスグループ・アメリカによるFuture Forwardの立上げ成功を受け、同プログラムのグループ全体への展開が始まっています。2025年3月には、コンパスグループUK&Iが、サプライチェーンにおけるカーボンインパクトに焦点を当てた初のFuture Forwardイベントを開催しました。本イベントでは、サプライチェーンを活用したサステナビリティ目標の達成手法が紹介されたほか、社会的企業の役割にスポットが当てられるとともに、排出量を追跡するツールも紹介されました。

Future Forwardプログラムは、ネットゼロや排出量削減を主なテーマとし、社会的企業との有意義なコラボレーションを触発し、サステナビリティをめぐる建設的な対話を促進することを目的として構成されています。また、さまざまな業界関係者、サプライヤー、クライアントが一堂に会してそれぞれのプランや革新的なアイデアを共有し、より持続可能な未来に向けた行動を共に推進していくためのダイナミックなプラットフォームとして機能しています。





10,000超

食品ロス量を記録している事業拠点の数

SFWD2025の活動を目にした人の数

2億1000万超

+ KPMG LLPは、保証基準ISAE (UK) 3000に基づき、[コンパスグループPLCの2025年度年次報告書](#)から抽出された特定のデータを対象として、独立した立場から限定的保証を提供しています。詳細は38ページをご覧ください。

食品ロスの削減

食品ロスは、依然としてフードサービス業界が直面する重要な環境課題の一つであり、私たちには有意義な変化を推進する責任と機会があります。

当社の調理チームは、世界各地の事業拠点において革新的なテクノロジーを駆使して食品ロスの削減に取り組んでいます。1万を超える拠点到日々の廃棄量を記録するトラッキングシステムを導入し、改善点の特定やデータに基づいた行動の推進に役立つ正確なデータを提供しています。さらに、継続的な研修によって、チームがこれらのシステムを最大限に活用できるようにし、説明責任を強化し、測定可能な成果の創出を実現しています。

食品ロスの削減は当社の脱炭素化ロードマップの大きな柱の一つであり、事業全般にわたって実践されています。2025年度の執行役員と上級管理職を対象とした年間賞与制度には、食品ロス削減に関する実績評価が組み込まれました。これにより、当社グループ全体で食品ロスを前年から11%削減することができました。当社はイノベーション、説明責任、そして共に働くことを通じて、食品ロスの根絶と世界の食料システムのサステナビリティ向上に取り組んで参ります。

データ、規律、インパクトー食品ロスの大規模な削減に向けて

米国では、食品ロスを計量・記録している事業が全体の90%に迫っています。これは運営面での前進だけでなく、食品の価値に対する企業文化そのものの変革を示すものです。その中心にいたるのは従業員で、ロスの発生箇所を特定するためのツールと、厨房で有意義な変化を生み出すために必要な知識が提供されています。日々の小さな行動の積み重ねによって、変革に向けた大きなうねりが生み出されることが、実践を通じて示されています。

食品ロス削減に向けた取り組みをサポートするため、コンパスグループ・アメリカは2025年に「廃棄物削減ガイド」を発表しました。本ガイドは、研修とスタッフ・エンゲージメント、プランニング、製造と発注、受入と保管、調理・提供・提供後の片付けという5つの柱で構成されています。この実践的なリソースは、チームに食品の取り扱いのすべての段階で廃棄削減をすることを促し、日常業務に説明責任とベストプラクティスを根付かせます。教育とエンバウメントに対する私たちの取り組みは着実に前進しています。米国では1万人近くの従業員が、データを活用して具体的な行動に結びつけるための研修を受講しており、そのうち1,000人がライブ形式のWaste Not™セッションに参加しました。こうしたインタラクティブな研修セッションは、自信を高め、連携を強化し、日常業務において測定可能な成果を生み出す行動を定着させます。

ストップ・フード・ウェスト・デー

2025年4月、コンパスグループは9回目となるストップ・フード・ウェスト・デー (SFWD) を実施しました。食べられる食品が年間数百万トン規模で廃棄されている現状において、食品ロスは世界の埋立廃棄物発生最大の要因となっています。SFWDは、単なる意識啓発にとどまらず、食品の価値に対する世界の人々の認識を変え、持続的な変革を生み出すことを目指しています。

4月1日、ニューヨーク市において、コンパスグループ・アメリカとFood Tankの共催による第2回Food Waste Warrior Awardが行われ、関連イベントが幕を開けました。同イベントでは、食料システム再構築の鍵としてイノベーション、協働、そして行動の重要性を提起するオピニオンリーダーが登壇しました。これにより、1か月にわたるストーリーテリングと世界規模での行動につながる創造的な機運が醸成されました。

4月を通じて、コンパスの各チームがさまざまな取り組みを実施し、世界各地の仲間、コミュニティ、クライアントとのエンゲージメントを深めました。

- Food Waste Warriorアンバサダー：英国、インド、オーストラリア、米国をはじめとする国々で影響力を有するコンパスグループのシェフが、SNSを通じて実用的なヒント、レシピ、戦略を発信しました。

- シェフ主導による教育と創造性の発信：コンパスグループのシェフによるガーデニング・ワークショップ、調理デモンストレーション、ゼロウェイストのアップサイクル・イベントが行われました。

- テクノロジーの活用：Waste Not™ 2.0などのツールを用いて、食品ロスの計量・記録、堆肥化、フードリカバリーの推進および厨房におけるデータに基づいた知見の創出を可能にすることで、イノベーションが大きなインパクトをもたらし得ることを示しました。

- 学校やスポーツ施設を含むさまざまな現場において、コンパスグループの各チームはSFWDをコミュニティ主導のムーブメントへと発展させました。世界各地でパートナーやアンバサダーが創意工夫に富んだメニューを紹介するとともに、アイデアを共有し、変革に向けた行動を促しました。

このように、SFWDは、過去最大の広がりを見せ、コンパスグループ主導の取り組みからグローバルな広がりを持つ「ムーブメント」へと進化しています。2026年4月に10周年を迎えるこの取り組みは、私たち一人ひとりが共に「一口一口の価値」を大切にすることで、持続的な変革が生まれ得ることを示しています。

おいしさを追求した低炭素メニュー

プラネット・プロミスの一環として、当社は、サステナビリティとおいしさを両立した気候配慮型メニューの開発に取り組んでいます。

分散型のビジネスモデルを採用している当社では、各地域のチームに裁量権を委ね、料理の卓越性と個々の食材に関する正確なサステナビリティデータを融合させることで、レシピの再構築を進めています。私たちのシェフは、地域の嗜好を尊重しつつ、排出量削減に向けた当社のグローバルなコミットメントを体现する、おいしさと低環境負荷を両立したメニューを生み出しています。

植物由来のメニューにスポットライト

2025年7月、英国の大規模イベント会場において、著名なポップスターのコンサートが6日間にわたって開催され、期間中に100%プラントベースの食事が提供されました。そこで提供されたストリートフードスタイルのメニューは、食材本来の味わいを活かした低炭素食レシピで構成されており、コンパス UK&Iのカーボン・コンサルタントであるFoodstepsからAまたはB評価を獲得しました。

一品あたりの排出量低減

66%

普段その会場で提供されているメニューに比べて低い

フィンランドの厨房で低炭素メニューを開発

コンパスグループ・フィンランドは、植物由来のメニューへ移行することで気候目標の達成を加速しています。野菜の使用比率を高め、赤身肉を環境負荷の低いものへと置き換え、新たに開発するランチメニューの40%をベジタリアンとすることにコミットしました。さらに、サプライヤーとの協働やシェフの研修と並行して、新たな植物性タンパク質の活用も検討しており、サステナビリティを厨房運営における中核的要素として位置付けています。

低炭素代替肉の調達

低炭素調達へのコミットメントの一環として、コンパスグループ UK&I は、野生鹿肉を使用したソーセージ、ハンバーガー、ミートボールなどのメニューを各事業拠点で導入しています。これは、より広範な排出量削減目標との整合性を確保しつつ、牛肉をはじめとする排出量の多い動物性タンパク質からの転換を促進する取り組みです。

英国産の野生鹿肉は、さまざまな地域で調達される一部の牛肉製品と比較した場合、カーボンフットプリントが最大で85%低く、環境面で大きな優位性を有しています。

小さな変化が生み出す大きなインパクト—米国

コンパスグループでは、気候変動対策を単なる戦略にとどめることなく、メニューを組み立てるプロセスにおける日常的な意思決定に反映させています。有意義な変化は、ときに「一つのロールパン」を作る際に施される小さな工夫から始まります。

2025年、コンパスグループ・アメリカは700万個を超えるヴィーガン・プリオッシュを調達しました。一見すると小さな変化のように思えるかもしれませんが、規模の力がサステナビリティの推進に直結し、大きな変革を生み出す原動力となり得ることを示しています。この規模で植物由来の原材料調達を選択することで、排出量の削減を図りながら、おいしさという最も重要な価値とお客様の満足度を両立させることが可能となります。

一つひとつのイノベーションが積み重なり、気候に配慮した食事が犠牲を意味する必要はないということを証明しています。ときには、それは「より良いパン」を選ぶということにすぎないのです。

私たちの環境活動を支えるパートナーシップ

環境スチュワードシップに対するコンパスグループのコミットメントは、バリューチェーン全体にわたって具体的なインパクトを創出する戦略的パートナーシップを通じて強化されています。

サプライヤー、イノベーター、コミュニティのステークホルダーと協働することで、私たちは農業システムの高度化、包装材の削減、低炭素オペレーションなどの取り組みを推進しています。こうしたパートナーシップは、当社のサステナビリティ目標に合致するだけでなく、説明責任を共有する枠組みを構築し、人と地球の双方に恩恵をもたらす拡張性のあるソリューションの実現を可能にしています。



コンパッション・イン・ワールド・ファーマーミング（CIWF）と緊密に連携し、研修、業界活動、アドボカシーなどを展開



世界動物福祉連合（GCAW）の創設メンバー



世界水産物持続可能性イニシアチブのパートナー



2022年、国際食品廃棄物連合（IFWC）に加入し、食品廃棄に対する取り組みを強化



サステナブルなパーム油に関する円卓会議のメンバー



2021年6月、スレーブフリー・アライアンスに加盟



責任ある大豆に関する円卓会議のメンバー



2004年、国連グローバル・コンパクトに署名



ビジネスリーダーシップと機会の創出を通して、障がいを持つ人々のインクルージョンの大幅な進展に尽力

サステナビリティ分野の頼れるアドバイザー



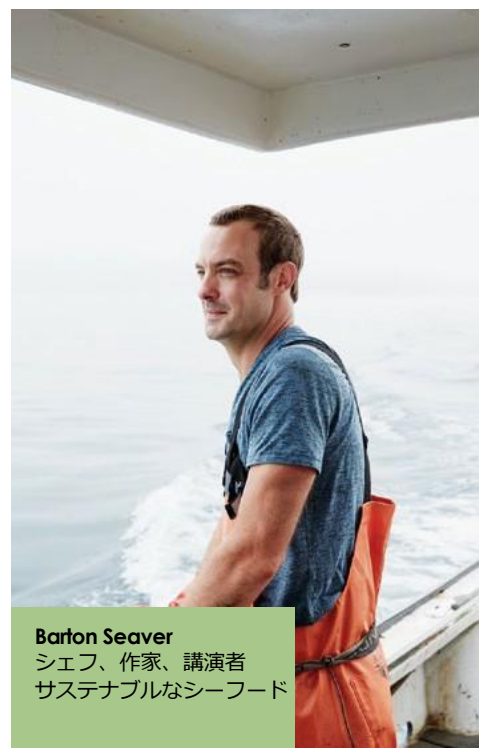
Dana Gunders
社長
食品ロス



Sam Kass
シェフ、作家、起業家
サプライヤーイノベーション



Danielle Nierenberg
フードタンク創業者
ストーリーテリング



Barton Seaver
シェフ、作家、講演者
サステナブルなシーフード



Sir Charles Godfray教授（王立協会フェロー）

オックスフォード大学 オックスフォード・マーティン・スクール校長
気候変動対策

デジタル・インテリジェンスの活用でインパクトを強化

データ、知見、テクノロジーを駆使して気候変動対策をリード

当社グループは、排出量データを日々のオペレーションに根付かせることで、フードサービスにおけるサステナビリティのあり方を再定義しています。2025年には、食材レベルの気候関連データをメニュー管理システム、調達ツール、クライアント向けダッシュボードおよびお客様のプラットフォームに統合し、複雑な分析結果を具体的な行動に結び付けました。

シェフの創造性を引き出す

現在、シェフはリアルタイムの排出量データを参照しつつ、おいしさと気候配慮を両立したメニュー開発を進めています。これにより、創造性の可能性が新たに広がり、カーボンインパクトの低減が実現しています。



よりスマートでサステナブルな調達

調達チームは、食材レベルの排出量データを可視化することで、より責任ある調達を実践し、サプライヤーの選定をコンパスグループの気候目標と整合させています。



変革を促す知見の提供

レポート機能の高度化により、クライアントと各チームは環境インパクトを明確に把握できるようになりました。これにより、よりスマートな意思決定が可能となり、強固なサステナビリティ戦略の推進につながっています。



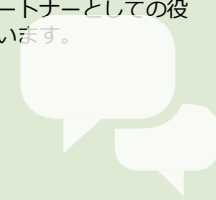
グローバルにインパクトをスケールアップ

数千の拠点で日々数百万食を提供している当社は、統合的なアプローチによって、あらゆる役割と意思決定が気候改善に目に見える形で貢献する体制を確立しています。



業務効率とクライアントとのエンゲージメント

現場のオペレーターやマネージャーは、サステナビリティ・ダッシュボードを通じて進捗状況を把握する一方で、クライアントには自社のインパクトを発信するためのツールを提供することで、当社の気候パートナーとしての役割を強化しています。



カーボン・ダッシュボードの活用により、クライアントは排出量の継続的な削減を進めるとともに、その成果を前年比で計量・記録しています。

サプライチェーン全体で 使い捨て資材を削減

2025年、当社グループは業界における包装材の使用方法の見直しに向けて、さらなる大きな一歩を踏み出しました。

これまで気候をテーマに開催されてきたFuture Forwardイベントの成功を踏まえ、最近ではサステナブル包装をテーマとするセッションを開催し、社内各部門のリーダーに加えて、テクノロジー業界の主要なクライアントと戦略的サプライヤー8社が参加しました。このフォーラムは、フードサービスのサプライチェーンにおける使い捨てプラスチック削減に向け、短期、中期、長期の各戦略の整合を図る貴重な機会となりました。議論は、革新的な代替素材から規模拡大が可能な再利用システムまで、多岐にわたりました。

議論を通じて明らかになったのは、前進には協働が不可欠であるという点です。当社グループでは各事業がその取り組みを主導する役割を担っています。

厨房・裏方業務における再利用システムの導入に向けた試験的な取り組みも進んでおり、コーヒーやカット野菜など取扱量の多いカテゴリーに重点を置いています。これらの取り組みは、標準化された包装仕様を地域ごとのサプライチェーンの能力と整合させることを目的として設計されています。

初期段階の成果として、高い運用可能性に加え、顕著な廃棄物削減効果やサプライヤーにとってのコスト削減効果が確認されています。これらの成果を踏まえ、現在は対象となるカテゴリーや市場を拡大し、業界全体への波及効果の創出を図っています。

販売・接客スペースにおける再利用の導入にはさまざまな課題が伴うものの、その重要性は変わりません。クライアントとの協働により、コンパスグループ各社はお客様との明確なコミュニケーション、段階的な導入プロセスおよび配慮ある財務設計を通じて、再利用の定着に向けた環境整備を進めています。ある製菓企業の拠点では、導入から90日以内に回収率98%を達成し、4トンの廃棄物削減と30トンのCO2eの排出回避を実現しました。成功の鍵になったのは、共同作業による設計、戦略的な回収ボックスの配置、そしてお客様の参加を促すメッセージングでした。サプライヤー、クライアント、消費者が共に前進するとき、有意義な変革が実現します。

pLESStic主導で使い捨て資材を削減

コンパスグループ・ベルギーの pLESSticイニシアチブは、食品の安全性や鮮度を損なうことなく、使い捨てプラスチックを再利用やリサイクルが可能な代替素材へと置き換えることで、プラスチック廃棄物の削減を推進しています。サプライヤーやサステナブルな廃棄物管理に取り組んでいる非営利団体と緊密に連携し、包装材が森林管理協議会（FSC）、森林認証制度相互承認プログラム（PEFC）、EUエコラベルなどのサステナビリティ基準に準拠していることを保証しています。具体的変更点としては、ペットボトルの缶または給水システムへの切り替え、ソースの個包装に代わるディスペンサーの導入、塩・胡椒の小袋からグラインダーへの置き換えおよび磁器や耐久性の高い長寿命プラスチック製容器の採用などが挙げられます。これらの取り組みは、コンパスグループの責任ある調達とフードサービスにおける循環性の推進に対するコミットメントを具体化するものです。

トロント動物園で循環性の推進

コンパスグループ・カナダは、トロント動物園、Friendlier（再利用可能パッケージのパートナー）および世界的な大手清涼飲料ブランドと連携し、使い捨て廃棄物の削減と気候目標の達成を支援する包装材再利用プログラムを開始しました。園内の飲食施設では、来園者はデポジット制の再利用可能な容器やカップを使用し、返却時にデポジットの返金を受けるか、野生動物保全活動へ寄付するかを選択できます。すべての包装材は回収、洗浄、再利用され、使い捨てを削減するとともに、循環型経済の実践を推進しています。この取り組みは、園のネットゼロ・ビジョンを支援し、来園者に身近な形でサステナビリティに貢献できる機会を提供しています。

遠隔拠点から広がる循環型インパクト

オーストラリアのオフショアや遠隔地にある13の拠点では、飲料用の缶やボトルのリサイクルに加え、国内の慈善団体への支援を目的として、同国の容器デポジット制度（CDS）に参加しています。オーストラリア首都特別地域（ACT）政府が公表したインパクトレポートによると、本プログラムにより、100万本を超える容器の埋立を回避し、777万6,975リットルの水資源を節約するとともに、62台の自動車を1年間走行停止したのと同等の効果を生み出しました。これにより、2025年だけで合計16万8,660kgのCO2eの排出を回避しています。



生物多様性保全を目指した自然に優しい行動

責任ある土地利用を通じた自然保護

当社は、森林破壊のないサプライチェーンの構築を通じて、自然と生物多様性の保全に取り組んでいます。これらの取り組みは、当社の森林破壊防止ポリシーおよび関連規制の枠組みに基づいて推進されています。欧州での当社の事業は、EUの森林破壊防止規則（EUDR）への適合に向けた準備を積極的に進めています。同規則は、牛、カカオ、コーヒー、パーム油、ゴム、大豆、木材およびその派生品の取引を行う企業に対し、これらの製品が森林の破壊や劣化および環境・社会関連法令の違反に寄与していないことの証明を義務付けています。

2024年の森林破壊防止ポリシー策定を踏まえ、当社はデューデリジェンスの実施、サプライチェーンの透明性確保、関係者との協働の強化に注力してきました。このポリシーは、森林リスクの高い主要コモディティ、すなわち牛肉、コーヒー、パーム油、使い捨て紙製品および木材製品を対象としています。また、明確な基準日（カットオフ日）と調達基準を設定し、森林破壊や自然林の転換に関連する原材料を排除する仕組みを確立しています。

森林破壊のないサプライチェーンを取り巻く環境が変化していることを踏まえ、当社は次の4つの柱に基づいて戦略を策定しています。

- 1 森林破壊や自然林の転換を禁止する厳格な基準に基づく認証製品の調達
- 2 低リスクの国や地域からの調達を基本とし、高リスク地域から調達する場合には、追加的な検証を実施
- 3 主要4品目の森林リスクコモディティについて、強化されたデューデリジェンス要件を充足するサプライヤーからの調達
- 4 業界横断的なイニシアチブやパートナーシップへの参画を通じ、全員参加型のアプローチによりリスクを低減

2025年には、森林破壊リスク管理に関する社内研修プログラムを拡充し、各事業の調達チームのスキルアップを図りました。

また、要件の定着を図るとともに、持続可能な慣行を促進し、フォレストポジティブなアプローチの推進に向けて、サプライヤーやパートナーとのポジティブなエンゲージメントを継続しています。

このコミットメントは、2050年までに気候ネットゼロを達成するという当社の包括的なプラネット・プロミスと整合しています。本取り組みは、健全な森林が気候変動の緩和、生物多様性の保全および食料システムの長期的なサステナビリティに不可欠であるとの認識に基づいています。

また、当社では年次グループ・サステナビリティ・レポートを通じて定期的に進捗状況を開示することで透明性を確保し、規制動向との整合性を維持するため、必要に応じてアプローチを見直しています。詳細については、www.compass-group.com/policiesをご覧ください。

地域の豆類が生み出すグローバルなインパクト

コンパスグループ・フランスは、サステナビリティ戦略の一環として、再生型農業の推進に重点的に取り組んでいます。生物多様性の保全、土壌の健全性の回復、排出量の削減などを通じて、サプライヤーやパートナーと連携し、強靱な農業慣行の普及および地域生態系の強化を推進しています。

その重要なマイルストーンの一つが、輸入レンズ豆からパリ近郊で栽培された豆類への調達転換です。これにより、国内各地の生産者とのパートナーシップが刷新されました。初年度だけで1,014トンの豆類を地元で調達し、2026年には調達量が前年と比べて34%増加する見込みです。この拡大は、本モデルの有効性を示すとともに、コンパスグループ・フランスを持続可能な食品調達分野におけるリーディングカンパニーとして位置付けるものです。



米国のコーヒーサプライヤーの能力強化による森林破壊のない調達の推進

2025年11月、コンパスグループ・アメリカは、米国のコーヒーサプライヤーを対象に、森林破壊防止に関するベストプラクティスとコンプライアンス対応に焦点を当てた研修を実施しました。本研修により、サプライヤーの意識向上、実態に即したコンプライアンス対応力の強化およびトレーサビリティ機能の高度化が実現しました。

また、コラボレーションの強化やリソースの共有を通じて、コンパスグループの責任ある調達と気候目標の達成を加速しています。

98%

総仕入れ量に占めるサステナブルなパーム油の割合

57%

総支出に占めるエシカル消費の認証を取得したコーヒーの割合

× KPMG LLPは、保証基準ISAE (UK) 3000に基づき、コンパスグループ PLCのウェブサイトの「サステナビリティ・パフォーマンス&報告」から抽出した特定のデータを対象として、独立した立場から限定的保証を提供しています。詳細は38ページをご覧ください。

人の力で切り拓く 未来

サステナビリティ向上に向けた私たちの取り組みを前進させているのは、才能と情熱を兼ね備えた一人ひとりの従業員であり、私たちにとってかけがえのない資産です。

私たちは、多様なバックグラウンドを持つ人材に等しく機会を提供し、組織のあらゆる階層において、多様性と包摂性を備えたチームづくりを推進しています。

また、サステナブルでおいしい食事を多くのお客様に提供し、食品ロスの削減を推進するとともに、素晴らしい体験を創出することで変革をリードしているシェフを、これからも積極的に顕彰していきます。

パッションが実現する料理のサステナビリティ

私たちの料理チームは創造性、配慮、そして使命感を持って、食の未来を切り拓き続けています。グローバルな協業から日常の現場における卓越した取り組みまで、そのリーダーシップは、サステナビリティの推進、食材活用の効率化および現場におけるインパクトの創出において着実な進展をもたらしています。2025年においても、そのパッションと革新性は、コミュニティへの貢献、さらには世界各地での変革推進を支える当社の取り組みの中心的な存在であり続けました。

グローバル料理フォーラム

グローバル料理フォーラムは、コンパスグループ全体からシニアクラスの調理リーダーが集い、共に働くことと専門知識の共有を通じて、世界規模で卓越性を追求する機会を提供しています。本フォーラムは、当社のサステナビリティ推進の中核を担う取り組みとして、食品ロスの削減や食材活用の最大化につながるイノベーションを推進しています。

2025年のハイライト

- 1 市場の垣根を越えてベストプラクティスを継続的に共有することで、グローバル規模での連携とインパクトを強化しています。
- 2 ルール・オブ・ファイブ（1つの食材を少なくとも5つのレシピで活用する仕組み）の導入拡大を進め、廃棄物追跡ツールによる定期的なモニタリングとあわせて、食材利用効率の向上と食品ロスの削減を推進しています。
- 3 料理チーム全体でサステナビリティに対する理解の向上を目的として、特に食品ロス削減につながる包丁の技術に焦点を当てた動画を制作しました。
- 4 また、新入社員、マネージャー、シェフを対象に、サステナビリティを取り開始プロセスに組み込むことを目的としたオリエンテーション・ビデオを新たに導入しました。

フォーラムのリーダーシップのもと、サステナビリティは引き続き、当社の料理文化やグループ全体の事業運営の根幹に位置付けられています。



厨房のヒーローを称えてシェフ感謝ウィーク

創造性、使命感を持って一皿一皿を生み出すシェフと最前線のチームの献身を称えました。本イベントは料理の卓越性を称えるものであり、現在では30か国以上で実施されている真にグローバルなイベントへと成長しました。さまざまな業界やコミュニティで活躍するシェフと現場チームがもたらす大きなインパクトにスポットライトを当てています。

米国シャーロットのコンパスグループ・アメリカ本社では、セレブシェフが訪れ、非公式な対話イベントで交流し、食への情熱や使命感を共有しました。このシェフの訪問は、シェフ感謝ウィークの意義を象徴するものです。このイベントは、一旦立ち止まって振り返り、料理チームの才能と献身に改めて光を当てる機会でもあります。

シェフ感謝ウィークは単なる伝統行事ではなく、世界各地で日々ホスピタリティを支えている人々の貢献を称える取り組みです。





従業員向けサステナビリティ研修

コンパスグループでは、持続可能性は、リーダーシップ、教育、日々の行動を通じ、人々によって推進されています。有意義な変化は、シニアリーダーが方向性を明確に打ち出し、自ら率先してサステナビリティを掲げるとともに、チームの成長に継続的に投資することから始まります。

このコミットメントはグループ全体に浸透しており、あらゆる階層の個人が主体的に責任ある選択を行える環境を整備しています。エグゼクティブ向けブリーフィングから実践的なワークショップまで、多様な研修体系を通じて、サステナビリティを日常業務に着実に落とし込むために必要な知識、自信および共通の使命感を醸成しています。これと並行して、当社はすべての事業分野や機能領域においてキャリア開発への投資を継続しており、エントリレベルから上級管理職に至るまでの成長を支える、階層別・目的別の体系的なプログラムを展開しています。これらの施策は定期的に見直され、従業員が明確な目的意識を持ってリーダーシップを発揮できるようにするとともに、クライアント、消費者、コミュニティ、そして地球環境を取り巻くニーズの変化に適應できる体制を構築しています。

持続可能な未来に向けた人材育成

2025年3月、コンパスグループUK&Iはサステナビリティ料理コース「植物由来のデザート習得」を立ち上げ、英国の著名なスポーツスタジアム2か所でシェフを対象に植物由来のパティセリー技術に関する研修を実施しました。加えて、サステナブルな食肉調達とメニュー開発の高度化を目指し、野生鹿肉の活用に関するマスタークラスを新たに導入しました。いずれの取り組みも、シェフの研修と責任ある食材選択を通じてサステナビリティを推進する当社のコミットメントを示すものです。さらに、同社では気候ネットゼロ・モジュールを活用して、厨房スタッフに対して廃棄物、エネルギー、水の使用量削減に関する研修を実施しました。これにより、サステナビリティの取り組みを日常業務へと定着させています。2025年、同モジュールは3万6,000回以上受講されました。

気候アンバサダーの育成—デンマーク

コンパスグループ・デンマークでは、グリーン化の推進を加速することを目的に、新たな能力開発およびアンバサダープログラム、Climate Chefsを立ち上げました。2024年5月以降、240名の厨房スタッフが、Climate Chefとしての研修を修了し、サステナブルな実践を主導するとともに、知見を共有するアンバサダー兼スペシャリストとして活躍しています。コンパスグループ・デンマークは、各拠点にClimate Chefを1名配置することを目標としており、現場主導による取り組みを推進するとともに、そのインパクトを確保しています。本プログラムでは、カーボンフットプリントの削減、植物中心のメニューや代替タンパク質の開発、肉および乳製品の使用抑制、より高いアニマルウェルフェア基準を満たす食肉の優先的活用、食品ロスの削減、省エネルギー手法の導入などに関する実践的なツールと知識を提供しています。デンマーク国内で1日あたり10万食以上を提供する規模を活かし、このイニシアティブはサステナブルな食に対する影響力を高めています。また、業務面での改善に加えて、Climate Chefは使命感と協働の意識の醸成に取り組むだけでなく、スタッフが知識を具体的な行動に移すことを促進しています。

日常業務に排出削減目標を組み込む

コンパスグループ・オーストラリアでは、2025年に7,800人を超えるスタッフに対し、Planet Positive行動に関する研修を実施しました。この研修は、国内外の排出削減目標と戦略の実行を支えるものであり、クライアントがその重要性を理解し、具体的な参画方法を把握できるよう支援しています。この研修は過去4年間にわたって進化を重ねてきました。現在では、最前線のチームが当社の環境負荷削減に向けた共通の取り組みを十分に理解していることを継続的に担保するために欠かせないツールとなっています。

3万6000超

英国とアイルランドで気候ネットゼロ・モジュールの研修を受けた厨房スタッフの数

変革者たち

コンパスグループでは、サステナビリティは単なる価値観ではなく、あらゆる業務プロセスに組み込まれた理念です。世界各地のチームが日々、実効性のある改善を積み重ねています。

この取り組みを先導する人々を称えるため、私たちは「プラネット・プロミスの変革者」に注目しています。これらの人々は、食品ロスの削減、地球環境に配慮した革新的メニューの開発、サプライヤーとのコラボレーション、さらには消費者がよりサステナブルな選択を行うことを促す取り組みを通じて、具体的な成果を生み出しています。その貢献は、当社のサステナビリティ目標達成を直接的にサポートするものであり、各地域の経営陣からも高い評価を得ています。

変革者たちの業績を広く紹介することで、その影響力を称えるだけでなく、組織全体にさらなる変革の推進力をもたらしめています。変革者のストーリーは、仲間である他の従業員を鼓舞し、組織内部からのサステナビリティ文化の構築につながっています。

その活動は、主要なソーシャルメディア・プラットフォームでも発信され、グループ全体で進展するポジティブな変化をフォローしていただくことが可能です。



Mark H. Maloney
コンパスグループ・アメリカ、Eurest東部門長
マークは、「リーダーシップ・プラネット・プロミスの変革者」の第一号に選ばれました。マークを真に際立たせているのは、グループとして最も意欲的な目標に対して一貫して成果を上げ続けている点です。毎年、揺るぎない姿勢で業務に取り組み、優れた実績を着実に積み重ねています。有意義な変化を推進するその姿勢は、コンパスグループ全体における目的指向型のリーダーシップの基準を示しています。



Heidi Link
Chartwells Higher Education
担当マーケティング&サステナビリティ・マネージャー、米国



Kory Dipucchio
企業幹部
シェフ、カナダ



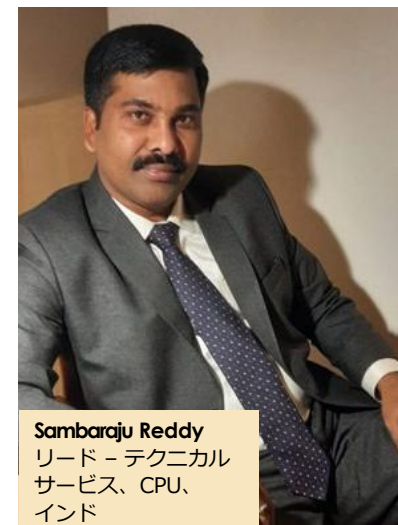
Gustavo Perez
モリソン・ヘルスケア、
地域エグゼクティブ
シェフ（米国）



Laila Bjerregaard
エリアマネージャー、
デンマーク
Esben Luplau
地域マネージャー、デンマーク



Megan McCray
「公衆衛生とサステナビリティ」プロジェクトマネージャー、米国



Sambaraju Reddy
リード - テクニカル
サービス、CPU、
インド



Katsuya Shoji
B&Iグローバルアカウント
サイトマネージャー、日本

サステナビリティリーダーの協働を通じた変革の推進

2025年、コンパスグループは気候変動対策におけるグローバルなリーダーシップを強化し、食の力を変革を牽引する原動力として位置付けました。ニューヨークやロンドンをはじめ、ヨーロッパ各地に至るまで、各地域のチームは大胆な発想、戦略的パートナーシップ、そして現場レベルでの業務革新を前面に打ち出した活動を展開しました。

ニューヨーク市気候週間

コンパスグループ・アメリカは、「ニューヨーク市気候週間」において、気候変動対策に関するグローバルな議論に参加し、変革を促す力としての食の可能性を発信しました。FoodTank主催のFood Futuresパネルでは、当社のグローバル・サステナビリティ・ディレクターが、テクノロジーと信頼の接点を掘り下げました。また、AIがトレーサビリティの向上にどのように貢献しているかを紹介するとともに、農家とのパートナーシップがこれからも前進を続けていくための鍵であることを共有しました。その後、米国のコミュニケーション担当バイス・プレジデントが、「変革がおいしくなるところ」と題したセッションで司会を務め、米国のRestaurant AssociatesのCEOとともに、食が持つエモーショナルな価値と環境面での意義について対話を行いました。食材への敬意を大切に取る姿勢から、あらゆる事業判断にサステナビリティを組み込む取り組みに至るまで、コンパスグループは「食品は無駄にしてはならない貴重な資源である」という信念を改めて示しました。そして、誠実なリーダーシップの発揮は、サステナビリティを日常業務と切り離せないものにするということであるという考えを強調しました。

ロンドン気候アクション週間

Levy UK&Iは、2025年の「ロンドン気候アクション週間」において、欧州最大級の気候フェスティバルに積極的に参画しました。サステナビリティのイノベーションおよびガバナンスをテーマとしたパネルディスカッション、パートナーシップ、円卓会議を通じて、ロンドン全域で行われた同イベントの成功に貢献しました。Levyのサステナビリティ・ディレクターは、サブライ・パートナーとともに登壇し、海藻由来パッケージの導入状況を報告し、「（動物の）鼻の頭から尻尾まで」を調理する技術、再利用推進に向けた取り組みであるOne CupsやPantry food-sharing schemeなど、食品ロス削減に向けた取り組みの知見を業界関係者向けのイベントで共有しました。Levyはブルームバーグ・アースショット賞のインパクト・アクセラレーター・プログラムや世界経済フォーラムの円卓会議にも参加しました。

欧州安全・サステナビリティ・フォーラム

10月に開催された欧州安全・サステナビリティ・フォーラムには、域内16か国すべてのリーダーが集い、サステナビリティがコンパスグループの事業戦略および成長の中心であり続けていることを改めて示しました。このイベントでは、持続可能な取り組みの定着と、協働を通じた有意義なインパクト創出への共通のコミットメントが示されました。主な成果として、See Care Shareプログラムの進展が紹介され、業務全般におけるケアと責任を重んじる文化の強化につながっていることが強調されました。また、コンパスグループ・スペインは、外部検証を組み入れたデジタル・ダッシュボードの活用を通じて、イノベーションを実証し、クライアントやチームに対する透明性を高める取り組みを紹介しました。このフォーラムでは、インスピレーションの喚起、ベストプラクティスの共有、そしてクライアント、消費者、ステークホルダーに向けたサステナビリティ推進への誇りを分かち合う場となりました。

食品ロスに関する王室との対話

コンパスグループ・オランダのサステナビリティ責任者が、オランダのマキシマ王妃とともに、InstockMarketのフードレスキューセンターで行われた円卓会議に参加しました。この会議では、食品ロス削減と循環型経済の推進が主なテーマとして取り上げられました。フードチェーン全体の関係者とともに、コンパス・オランダによる余剰食材の有効活用や、見過ごされがちな食材に新たな価値を見出す取り組みが紹介され、同社のコミットメントに注目が集まりました。この対話は、協働、イノベーション、そして大胆な購買戦略がホスピタリティ分野での前進を加速し得ることを示す機会となりました。

世界経済フォーラム

2025年初頭、コンパスグループのメンバーが世界経済フォーラム（ダボス会議）に参加し、サステナビリティ、イノベーション、使命感を持ったリーダーシップに関するグローバルな議論に加わりました。主な学びとしては、女性が女性を支援する重要性、思いやりが有意義なインパクトを生み出す触媒となること、また、多様なリーダーシップが強靭性を高める原動力となることが挙げられます。また、対話の中では、AIが平等化を促す強力な手段であること、そしてサステナビリティが将来の成長とブランドの使命のための重要な柱であることが強調されました。



38ページの写真クレジット1を参照

インクルーシブな企業文化の推進

コンパスグループにおけるサステナビリティは、環境への影響にとどまらず、人とコミュニティを支援することにも広がっています。

私たちの取り組みは、ウェルビーイングの向上、インクルージョンの推進、プロフェッショナルとしての成長を支援するものです。具体的には、新たに親となる従業員への支援、メンタルヘルス面でのサポート、厨房でのリーダー育成、コミュニティとのパートナーシップなどが含まれます。これらの取り組みは、社会的サステナビリティへのコミットメントを示すだけでなく、誰もが最大限に能力を発揮できる職場づくりにつながっています。

親になるための計画ガイドー英国、アイルランド

コンパスグループUK&I向けにWomen in Foodコミュニティが制作した「あなたの旅をサポートします：親になるための準備と職場」は、親になるというライフステージへの移行期を迎える従業員と、その過程を支えるマネジャーの双方に向けて、実践的かつ共感に基づく指針を提供するガイドです。このガイドは、働く親になるにあたって考慮すべき重要事項や関連情報を整理しています。それぞれの歩みが異なることを前提に、すべての内容がすべての人に当てはまるものではないことにも配慮がなされています。初版では出産の経験に焦点を当てており、今後は代理出産や養子縁組など、多様な親への道を含めた改訂版の発行も予定されています。

メンタルヘルス・ポータルと新任ラインマネジャー向けガイドー英国とアイルランド

コンパスグループUK&Iでは、You Matter Networkを通じてメンタルヘルス、ウェルビーイング、対話およびケアの支援に取り組んでいます。専用のYou Matterポータルでは、信頼性の高い慈善団体や関連専門機関の知見を集約し、職場におけるメンタルヘルスについて、オープンかつ実効性のある対話を促進しています。本年は、メンタルヘルス関連の主要テーマを取り上げ、対話の始め方について具体的な助言を提供する、ラインマネジャー向けガイドを新たに8本公開しました。

Women in Culinaryイニシアチブー北米

北米で展開しているWomen in Culinaryイニシアチブは、研修、メンターシップ、リーダーシップ育成に特化した機会を提供しています。2日半にわたる体験型プログラムでは、スキルの向上、ストーリーテリング、ホスピタリティ業界のリーダーや料理界のイノベーターとの交流に重点を置いています。イベントのハイライトである「シェフ・ショーケース」では、参加者がチームを組み、創造性あふれる料理の企画・調理に取り組み、料理の完成度とチームワークの成果を披露します。



女性シェフのエンパワメントーインド

インドで展開されているWomen in CulinaryプログラムであるThe Shefは、女性シェフの採用、育成、そして活躍の場の拡大を目的として誕生しました。The Shefは、機会の提供、知名度の向上、リーダーシップの成長支援を通じて、よりインクルーシブで思いやりのある料理コミュニティの構築を目指しています。本プログラムは、体系的なメンタリング、パディ制度および女性シェフの歩みや成果を広く発信するプラットフォームを組み合わせた構成となっています。この取り組みを持続・加速させるという強い意志のもと、The Shefはコンパスグループ・インドにおける長期的なインクルージョンおよび人材戦略の重要な柱となっています。

女性エンパワメント・ネットワーク（WEN）ー日本

設立当初から、WENは対話、提言、プロとしての成長を達成するためのプラットフォームとして機能することを目指してきました。特に育児、柔軟な働き方、ワークライフバランスといった分野で女性の経験を職場の意思決定の場に反映させることを重視しています。WENはインクルーシブなコミュニティとして設計されており、ジェンダーバランスの推進に賛同する女性とその支援者の双方を広く受け入れています。また、シニアリーダーがスポンサーとして参画しています。長らく調和や謙虚さを重んじてきた日本の社会において、WENは自信と個性を強みとして捉え直す一助となっています。従業員が積極的に発言し、主体的に行動できるように促すとともに、誰もが仕事とプライベートの健全なバランスを実現できるインクルーシブな職場環境の構築を目指しています。

インクルーシブなパートナーシップー米国

コンパスグループ・アメリカは、コミュニティや社会福祉団体と連携し、インクルーシブな雇用を推進し、知的障がいや発達障がいのある人々を支援しています。こうしたパートナーシップは、同社が毎年開催しているBe the Difference Conferenceへの参画にも広がっています。このカンファレンスでは、協働の取り組みを広く共有し、パートナーや従業員の成果を称え、インクルーシブな職場環境の構築に向けたコミットメントを改めて確認しています。



コミュニティとの 協業

コンパスグループは、サービスを提供するコミュニティの多様性を反映したインクルーシブなチームづくりに取り組んでいます。誰もが能力を発揮し、豊かなキャリアを築くことができる環境づくりに努めています。

グループ全体で、従業員と各グループ会社は地域のウェルビーイング向上に積極的に貢献しています。支援を必要としている人々に余剰食品を寄付することや、慈善活動のために資金を集めること、可能な限り地元で調達すること、社会に前向きなインパクトを与える団体を支援することなどに取り組んでいます。

地域のパートナーと連携し、コミュニティのニーズを的確に把握し、有意義な行動で応えることで、私たちの事業はサービスを提供しているコミュニティの一部として根付き、それを基盤として長期的な関係と共通の価値が育まれています。



インクルージョンを通じた 強靱なサプライチェーンの構築

コンパスグループは、大きな購買力を有するフードサービスのリーディングカンパニーとして、インクルーシブな調達をもたらす責任と機会の双方を深く認識しています。

私たちの選択は、地域経済を強化し、これまで十分に注目を集めることがなかった起業家をサポートするとともに、強靱なサプライチェーンの構築に寄与しています。2025年には、調達戦略全体にインクルーシブな実践を組み込み、大きなインパクトを創出する形で多様なサプライヤーを支援する枠組みを拡充することで、サプライヤーの多様性への取り組みを強化しました。また、データ収集の高度化、可視性の向上、成功事例の共有を通じて行動を促すとともに、専門機関とのパートナーシップを強化し、協働を通じたアプローチを維持しながらグローバルなベストプラクティスとの整合を図っています。こうした取り組みを通じて、私たちはサービスを提供するコミュニティの特性を反映し、価値を届けるサプライチェーンの構築を進めています。

社会事業に携わるサプライヤーへの門戸拡大

サプライチェーンに参画している社会的企業を支援する専用プログラムを英国で立ち上げました。共通の課題に対してソリューションを共創することで、各チームは、こうした目的指向型のビジネスが直面しがちな参入障壁や機会へのアクセス制約を解消するために連携して取り組んでいます。そうしたサプライヤーに特化した取引開始プロセスの設計から、意欲的な目標の新たな設定に至るまで、コンパスグループUK&Iは、本当の社会的価値を創出する企業への参画機会を拡大しています。

この取り組みは、明確な枠組みの中で推進され、前向きなインパクトの創出というビジョンを共有するサプライヤーとの取引拡大および調達額の増加に重点が置かれています。

共に成長する

米国ノースカロライナ州において、コンパスグループ・アメリカが環境型農業システムセンター（CEFS）と連携して立ち上げたGrow with Usは、農業従事者のニーズに応え、事業の成長過程を支援することを目的としたプログラムです。現在ではカリフォルニア州、イリノイ州、バージニア州、ワシントン州、テキサス州、メリーランド州にも展開されています。本年は、コンパスグループ・アメリカが43の農場とパートナーシップを結び、スポークン、ポートランド、アトランタ、ニューヨーク市、ボストン、フィラデルフィアの6地域に進出しました。当初はシーズン限定の試験的プログラムとして始まった施策ですが、今では一部の州において通年型の取り組みへと発展し、より多くの小規模農場の成長を支援しています。

そのインパクトは明らかです。Grow with Usでは、参加農場との取引金額が前年から34%増加し、参加拠点数も105%増を達成しました。これは、生産者とのパートナーシップの強化や地元産食材への需要拡大を示しています。

Grow with Usを通じて、農家は新たな市場へのアクセスに加え、シェフやクライアントとの長期的なパートナーシップ、非営利団体のリソース活用機会、さらには次世代の農業リーダーの育成につながるネットワーキングの機会を得ています。Grow with Usは単なる調達施策ではなく、地域社会、サステナビリティ、そして食料システムの強靱性向上に対するコミットメントを示すものです。また、農業分野における伝統を尊重しつつ、地域農業の発展を支えています。

コミュニティのエンパワーメント・インド

市場を擁するバスタル地方の町、ジャグダルプールにおいて、先住民コミュニティが生産するタマリンドペーストを調達しています。このコラボレーションは、高品質な原材料の確保とサステナブルな暮らしに対する支援の両立を目指したものです。Bastar Farmsは、技能向上支援や専門的知見の提供、公正かつ直接的な価格設定を通じて、部族生産者が自らの技術を磨き、製品の付加価値を高めることによって、長期的に安定した経済基盤を確立できる環境の整備を進めています。



地元調達によるコミュニティの強化

2025 年、当社グループ各社は目的ある調達を強化し、地域の生産者を私たちの食料システムの中心に据えました。

当社グループの各事業において、シェフや調達チームは地元の農場やベーカーリー、独立系サプライヤーと提携して、フードマイレージの削減と地域ならではの味わいの創出に取り組んでいます。こうした協働関係は、信頼、透明性、そして共通の価値観の上に築かれています。私たちは、オーナー経営の小規模事業者への投資を通じて地域経済の活性化に貢献するとともに、より新鮮でトレーサビリティが確保された食材をお客様に提供しています。日々の意思決定にサステナビリティの視点を組み込みながら、「良い食」は「良い関係性」から生まれることを実証しています。

地元調達における循環型アプローチ

Diningは、ハイパーローカル調達の推進に向けてTory Hillと提携しました。2018年に設立されたTory Hillは、ニューイングランドの小規模農場と各種団体を直接つなぎ、一頭買いによる調達を通じて地域の食料システムを支えています。その価値観は、食を通じてコミュニティの強化を目指すFLIKのコミットメントと方向性を同じくするものです。

FLIKによるTory Hillの買収は、インフラや資源を拡充することにより、事業の成長を促進するだけでなく、生産者の利益の確保にも寄与しています。このパートナーシップにより、シェフは一頭買いを前提としたメニュー開発に取り組むことが可能となり、食品ロスの削減に加え、食材の由来への理解が深まっています。

「Tory Hillは当社の地元調達の取り組みを強化しています。農家の方々と直接協業することで、高品質な食材を安定的に確保し、私たちがサービスを提供している地域社会を支えています。」

Scott Davis,
FLIK CEO、コンパスグループ・アメリカ

Tory Hillは農場と協働し、加工業者とも協力しながら動物を余すことなく活用しています。例えば、豚の副産物をロブスター漁業者に餌として供給するなど、ロスを発生させない仕組みを構築しています。創業者は、コミュニティへの波及効果を重視しています。これは、たとえ食品予算の1%でも地元へ振り向けることができれば、家族経営の農場に変革をもたらし得ると考えているためです。

肉からキノコへ

コンパスグループ・ベルギーは、地元志向で循環型の調達をさらに推進するため、かつては伝統的な食肉生産を手がけていた企業で、現在は地元産のヒラタケを原料とする植物由来の商品を生産している新たなサプライヤーと提携しました。このヒラタケは、ベルギー国内のコーヒー豆の焙煎機や醸造所から出る農業系廃棄物を使用して栽培されており、水や土地の利用や輸送が最小限に抑えられています。さらに、社会事業を行っている企業の協力を得て生産され、自然なうま味を備えた本製品は、肉や魚に代わるサステナブルな選択肢を提供するとともに、地域の生産者、循環型農業、そしてコミュニティにおける雇用機会の創出にも寄与しています。

明確な目的を持った寄付で飢餓と闘う

私たちは、フードリカバリーを行っている団体と連携し、食料不安に直面している人々に余剰食品が確実に届けられる仕組みの構築に取り組んでいます。

専用ツールの活用と強固な協働体制のもと、各グループ会社は過去1年間で310万食を寄付し、食品ロスの削減を進めながら、支援を必要とするコミュニティに栄養価の高い食料を提供しました。こうした取り組みは、最も支援を必要とする人々に不可欠なサポートを提供するだけでなく、食べられる食品の埋め立て処分を回避し、それに伴う排出量を抑制することで、よりサステナブルな食料システムの構築にも寄与しています。

コミュニティを豊かにするパートナーシップ

コンパスグループ・アメリカにとって、食品ロスの削減とコミュニティへの支援は密接に関連しています。長年にわたる非営利団体とのパートナーシップや新たなコラボレーションの推進は、こうしたコミットメントを反映するものであり、余剰食品を最も支援を必要としている人々に確実に届ける体制を構築しています。

2025年には、コンパスグループ・アメリカは全米のコミュニティに約250万食を寄付しました。これは、フードリカバリーがコミュニティに具体的な変化をもたらす力を有していることを示すものです。

コンパスグループのメンバーであるレストラン・アソシエイツ（RA）は、各拠点においてNew York Common Pantry（NYCP）と約10年にわたって提携し、飢餓の解消とニューヨーク市民の健康的な未来の支援に取り組んできました。市内の多くのRA拠点は、余剰食品を定期的にNYCPへ提供しています。RAのチームは、フードリカバリー以外にも、ホリデーシーズンの食事提供や玩具寄付といったボランティア活動、さらには毎年開催されるメモリアル・ゴルフコンペでの資金調達活動にも取り組み、コミュニティに長期的な影響をもたらすパートナーシップを築いています。

さらに、コンパスグループ・アメリカは、テクノロジーを活用したソリューションの導入により、コミュニティ支援の取り組みを強化しています。たとえば、Levy USは食品寄付アプリやレスキューソフトウェアを全米で導入しています。このソフトウェアにより寄付プロセスが効率化され、従業員は日々の業務の中にフードリカバリーに関連する作業をスムーズに組み込むことが可能となりました。さらに、寄付データを一元管理することで、経営陣が状況を一目で把握できるようになりました。シカゴでは、こうした取り組みにより、各種団体との協働を通じて既に数千食が地域住民に提供されています。

オーストラリア最大のスポーツイベントで生まれる社会的インパクト

2025年にオーストラリアでLevyブランドを立ち上げたことを契機に、同国最大のスポーツイベントの舞台で、大きなインパクトを生み出す機会が得られました。3週間にわたるテニス・トーナメント期間中、コンパスグループ・オーストラリアの現地チームはパートナーと緊密に連携し、支援を必要としている人々に5,000食以上の食事と軽食を提供しました。

必要とする人々への食料の再配分

2025年、コンパスグループ・カナダはSecond Harvestとのパートナーシップを拡大し、医療施設における食品寄付プログラムにグループ会社、Steamplicityのメニューを導入しました。患者一人ひとりのニーズに応じた作りたての食事を提供するSteamplicityは、余剰分を地域の非営利団体へ振り向けることで、食品ロスやGHG排出量の削減に貢献するとともに、顧客のサステナビリティ目標と歩調を合わせています。

また、Encompass Safetyチームと協働することにより、すべての寄付品が食品安全基準を満たしていることを徹底するとともに、これを踏まえてオペレーター向けのポリシーと取扱いガイドを更新しました。2024年2月以降、Steamplicityの寄付プログラムにより、11万5,000食以上（45万ドル相当）が寄付され、30万kgのGHG排出を回避しています。この取り組みは、オペレーションの革新とコミュニティとのパートナーシップを融合することで、環境、社会の両面で目に見えるインパクトを創出し得ることを示しています。

310万食

地域コミュニティに寄付した食事の数



コンパスグループ財団

戦略的な寄付を通じたコミュニティ支援

コンパスグループ財団は、グループ各社と連携しながらグローバルに社会的インパクトの創出とパーパスの実現を推進する独立した慈善団体*です。

財団は、誰もが障壁に阻まれることなく課題を乗り越え、意義のある仕事に就き、フードビジネスを成長させ、より良いコミュニティを作り上げる機会を持てる未来を描いています。

このビジョンの実現に向け、当業界ならではの強みと機会を最大限に活用する協働型のグローバル財団として活動しています。コンパスグループ各社およびその社会的インパクト・パートナーとの連携を通じて、同財団は支援対象となるコミュニティに対する総合的なインパクトを高めています。

2025年に財団が残したインパクト

2025年、コンパスグループ財団は8か国にわたる22の取り組みに資金を提供し、直接・間接を合わせて15,000人超の受益者と270社以上の中小企業（SMEs）を支援しました。2023年の設立以来、財団は40を超える非営利団体に助成を実施し、雇用機会へのアクセスを拡大し、起業家・農業従事者にビジネスチャンスを提供しています。対象国は、オーストラリア、フランス、インド、アイルランド、日本、スウェーデン、トルコ、英国、米国を含む14か国に及びます。

小規模サプライヤーの支援

コンパスグループ財団は、各グループ会社と連携しながら、小規模サプライヤーの成長を支援し、インクルージョンの推進に取り組んでいます。例えばインドでは、農業従事者がケージフリー卵の生産に移行できるよう、研修の提供や市場アクセスの確保を通じて支援しています。フランスでは、障がいを持つ人々を雇用する食品関連企業が消費者とつながる機会を創出しています。

ドイツでは、余剰資源をサステナブルな製品へと転換しつつ、障がいを持つ人々の雇用を生み出す取り組みを支援しています。これらの活動を通じて、地域経済の強化、サステナビリティの推進、小規模サプライヤーが成長する機会の拡大に貢献しています。

インクルーシブな雇用の推進

財団は、各グループ会社や慈善団体と連携し、雇用機会の創出につながるインパクトの大きな取り組みを展開しています。例えば、英国とアイルランドでは、Xcelerate Your Futureプログラムを通じて、社会的に十分な機会に恵まれない地域の人々に対し、ホスピタリティに関する研修や就業機会を提供しています。米国では、学習障がいのある人々に対し、スキル研修と有意義な雇用の場を提供する団体と連携して活動しています。

これらは、財団がインクルーシブな雇用への門戸を広げるために行っている取り組みの一例です。

2023年以降の実績

40超

資金提供を行った非営利団体の数（14か国）

21,000超

直接・間接的な受益者の数

詳細は以下をご参照ください。

www.compassgroupfoundation.org

登録慈善団体番号 1187218（イングランドおよびウェールズ）



ガバナンスの実践

強固なガバナンスは、透明性と説明責任を確保しながら当社の気候移行戦略を着実に遂行するための基盤となります。グループ全体で、主要なリスクと機会を効果的に監督できるように、包括的なサステナビリティ・ガバナンス体制を整備しています。

コンパスグループPLCの企業責任委員会は、サステナビリティに関する方針や戦略の策定とその進捗管理を担っており、気候ネットゼロへのコミットメントもその対象に含まれます。同委員会は、KPIおよびGHG排出量削減目標に対する具体的な進展を確認するとともに、最高水準の倫理性と誠実性の維持を行っています。

確固としたポリシー、制度、統制、そして倫理的な行動により、当社は顧客の支援、従業員のエンパワーメント、そして地球環境の保全をより確実に推進できる体制を整えています。こうした基盤は、事業の強靭性と信頼性の向上にも寄与し、共有価値や責任ある成長を一層重視する投資家や顧客の信頼を集めています。

倫理と誠実性

正しい行動をとる

コンパスは、グループ全体において高い倫理・誠実性（E&I）基準を堅持することに取り組んでおり、この姿勢は、グローバルリーダーかつ信頼されるパートナーとしての評価につながっています。コンパスグループPLCは、当社のE&Iプログラムに対する包括的な評価を経て、EthisphereよりCompliance Leader Verification賞を受賞しました。これは、インテグリティ文化のさらなる強化に向けた当社の継続的な取り組みを裏付けるものです。

コンパスグループでは「人」を事業の中心に据えています。従業員が安心して声を上げ、その声が真摯に受け止められる文化の醸成と定着を推進しています。このような環境を育むことで、オープン性、信頼、誠実性を重視する価値主導型の職場文化を深め、常に正しい行動を選択できるよう従業員を支えています。

当社は、従業員とビジネスパートナーのあらゆる意思決定が誠実性に基づくものとなるよう努めています。また、企業行動規範（CBC）、人権ポリシー、グローバルサプライヤー行動規範（SCOC）、およびビジネス・インテグリティ・ポリシー（BIP）の継続的な実践を通して、従業員、パートナー、ステークホルダーの権利の尊重に取り組んでいます。

当社の企業行動規範と関連ポリシーは、国際的に認められた宣言や基準、原則に基づいており、以下はその主な例になります。

- 国連世界人権宣言
- 国際労働機関（ILO）の基本条約とエシカル・トレーディング・イニシアチブ（ETI）のベースコード
- OECD多国籍企業行動指針
- 労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言
- 国際人権章典
- 国連ビジネスと人権に関する指導原則
- 国連グローバル・コンパクトの10原則

CBCと各種ポリシーは、コンパスグループ各社のすべての従業員に対し、世界共通で適用されています。

コンパスグループのCBCは、当社の原則、価値観、企業としてのコミットメントに基づく包括的な枠組みを定めたものです。具体的な「すべきこと」や「すべきでないこと」を明確に定めるとともに、追加情報の参照先や相談窓口について実務に即したガイダンスを提供しています。また、グループ各社が事業を展開する国や地域で主に使用されるすべての言語でCBCを整備し、誰もがアクセスできる環境を整えています。

従業員、パートナー、投資家との相互の信頼関係なしには当社は継続的に成功を収めることはできません。こうした関係を築くためには、従業員一人ひとりが組織の一員として責任ある行動を取ることが不可欠です。サプライヤーもまた、当社のSCOCの基準と原則を遵守することを期待されています。

BIPは、重大なビジネス・インテグリティ・リスクの予防・軽減を図るとともに、関連法令の遵守を確保することを目的としています。E&I研修と併せて実施されるBIPは、従業員の倫理的ジレンマに対する認識を高め、リスクの兆候（レッドフラッグ）を的確に識別できるようにし、適切な対応に向けた明確な期待事項と指針を示しています。

当社のBIPとData Privacy Policy Statement（DPPS）は、E&Iの精神と主要な統制策を引き続き定着させ、継続的にモニタリングするための枠組みを一層強化するものです。

誠実性を重視した意思決定は、E&Iの啓発キャンペーンや定期的な研修を通じて強化されています。リーダー主導のコミュニケーションや各種キャンペーンを通じて、違和感を覚えた時に安心して声を上げることができる環境の醸成と定着を継続的に推進しています。

当社は、ピープル部門（人権を含む）やサステナビリティ、サプライチェーン、グループE&Iチームの専門家と連携し、グローバルなサプライチェーンリスク管理（SCRM）の枠組みの組織内への定着を継続的に推進し、TPIDDプロセスの強化に取り組みしました。このプロセスは、当社の第三者リスク評価の基盤であり、グループ企業がサプライヤーの倫理的な適合性を継続的に評価する助けになっています。2025年には、すべての市場においてTPIDDポリシーとその手順の導入をさらに推進しました。詳細は2025年度年次報告書の「ピープルとカルチャー」のページならびに当社ウェブサイトに掲載している現代奴隷法に関する声明およびE&I関連のページをご覧ください。

www.compass-group.com

2025年のハイライト

21,000人以上

E&Iの原則とリスク領域に関する研修を受講した全世界の従業員の数

91%**

「おかしいと感じる状況を目撃した場合は声を上げる」と回答した従業員の割合（2024年：90%）

89%**

「職場では誠実性を重視した意思決定がなされている」と回答した従業員の割合（2024：88%）

98%**

「職場で倫理違反が報告された場合、適切な措置が取られると確信している」*と回答した従業員の割合

10,000人以上**

世界中の市場でE&Iアンバサダーに選ばれた従業員の数

22,000以上

TPIDDの対象となったサプライヤー、人材紹介会社、流通業者の数

- 当社のE&IおよびSpeakUp, We're Listeningの詳細については、当社ウェブサイトの専用セクションをご覧ください。
www.compass-group.com/en/who-we-are/ethics-and-integrity.html

** 2025年度E&Iリサーチ（全地域）の回答に基づく

Speak Up, We're Listening

当社は、何かがおかしいと感じたときには従業員が安心して声を上げられる、インクルーシブな環境の醸成に取り組んでいます。コンパスグループでは、誰かが声を上げたときに、その声に耳を傾け、正しい行いを実践することは、すべての従業員の義務であり責任です。

Speak Up, We're Listeningは、当社の秘密遵守の報告制度です。この制度は、不適切な行為や CBC、BIP、その他のポリシーまたは法令の違反に関して、従業員が懸念を表明できる仕組みを提供しています。24時間365日、QRコード、ウェブサイトまたは電話でアクセス可能で、従業員だけでなく、サプライヤー、顧客、コミュニティ、およびコンパスグループのビジネスに関心を持つすべての人に開かれています。このプログラムは、どの事業部門からも独立したコンパスグループE&I部門の管理下に置くことによって、公平性と信頼性を確保しています。

寄せられたすべての懸念は、真摯かつ慎重に取り扱われ、通報者への回答および適切な対応を行うことを徹底しています。コンパスグループは、通報の結果にかかわらず、声を上げた人に対する報復や不利益な取り扱いを厳格に禁止し、これを一切容認しません。

監視体制は、当社のE&Iガバナンス・フレームワークを構成する重要な要素の一つです。E&Iに関する最新情報は、コンパスグループPLCの企業責任委員会および各地域のガバナンス委員会と定期的に共有しています。

当社のE&Iならびに[Speak Up, We're Listening](#)プログラムおよび2025年度の実績の詳細については、www.compass-group.com/en/who-we-are/ethics-and-integrityをご覧ください。

4,897

2025年にSpeak Up, We're Listeningに報告された事例の数
(従業員100人あたり0.84件)



サプライチェーン全体における 透明性と責任の向上

サプライチェーン・リスク管理（SCRM）戦略

2025年、当社は国レベルでのプロセスの定着を一層進めるとともに、サプライヤーに関する情報把握の高度化を図り、SCRMフレームワークを強化しました。SEDEXなどのツールとTPIDDプログラムを組み合わせることで、市場横断的に一貫したE&Iリスクのスクリーニング基準を策定しています。このフレームワークは、各チームがより詳細な検証を要する領域を特定し、その優先順位付けを行うための取り組みを支援しています。

SEDEXにより、現在では68か国、2,600以上のサプライヤー拠点を可視化しており、75万人を超える労働者を対象としています。倫理監査や自己評価、スレーブフリー・アライアンスのような専門機関との連携は、調達に関する意思決定に反映され、透明性と責任ある調達へのコミットメントがさらに強化されています。

第三者インテグリティ・デューデリジェンス

第三者インテグリティ・デューデリジェンス（TPIDD）は、当社がサプライヤー基盤全体におけるインテグリティおよび倫理リスクを評価するうえで中核となる仕組みです。このプログラムは、対象となるサプライヤーを、倫理、ビジネス・インテグリティ、人権、環境慣行に関するコンパスグループの基準に照らして体系的に評価するための枠組みを提供しています。

2025年には、各事業においてTPIDDプロセスと調達実務との統合を強化し、リスクの早期特定および運用の一貫性を向上しました。調達部門、E&I部門、法務部門および地域リーダーシップの間の継続的な連携を通じ、プログラムの高度化を図るとともに、透明性と責任ある事業運営へのコミットメントを強化しています。本プログラムのもと、グループのTPIDDツールを活用し、約22,000社のサプライヤー、人材派遣会社、流通業者を対象にモニタリングを実施しています。

チーム全員の意識向上と能力強化

2025年、コンパスグループの責任ある調達目標の実現を支えるべく、チームの実行力強化を図りました。調達チームに対しては、アニマルウェルフェア、森林破壊対策、サステナブルな商品といったESGトピックに関する研修を拡充し、SEDEX、TPIDD、スコップ 1、2、3排出量報告などのツールに関する指針を提供しました。

これらの研修を通じて、調達判断における透明性とトレーサビリティの重要性を改めて徹底しています。さらに、人権ワーキンググループは、機能部門・市場横断型の協働を継続的に推進し、人権リスクに関する共通理解を深め、統一的なアプローチの強化に取り組んでいます。

グローバルサプライヤー行動規範による基準の維持

当社のグローバルサプライヤー行動規範（SCOC）は、責任ある調達プログラムの重要な柱の一つであり、倫理、人権、環境基準に関する明確な期待事項を示しています。本規範は、国連指導原則、ILO宣言、ETIのベースコードなどの国際的な枠組みとも整合しています。SCOCは、新規サプライヤーとの取引開始プロセスや年次再確認などのプロセスに組み込まれており、監査および継続的なエンゲージメントを通じて遵守の徹底を図っています。国ごとのリスクをまとめた一覧は、高リスクカテゴリーに内在する課題の特定に活用されています。また、SCRMフレームワークは、倫理的かつサステナブルな調達における継続的改善を促進することを目的として設計されています。

作業服の入札にSCRMを適用— フィンランド

コンパスグループ・フィンランドでは、サプライチェーンが複雑で労働課題に関するリスクが高いとされるカテゴリーである作業服の入札に、SCRMフレームワークを適用しています。候補となるサプライヤーに対しては、書面による事前監査と専門家によるレビューを実施し、責任ある事業運営に関する基準を評価しました。その結果、トレーサビリティが確保され、責任ある方法で生産された衣料品のみを選定できる体制を構築しています。

サプライヤー・デューデリジェンスの強化—ドイツ

コンパスグループ・ドイツは、コーヒーやシーフードなどの高リスクカテゴリーの入札にSCRMフレームワークを適用し、サプライヤーの選定がコンパスグループの責任ある調達基準に確実に適合するよう運用を徹底しました。このアプローチは、企業に対してサプライチェーンにおける人権および環境リスクの特定、評価、軽減を義務付けているドイツのサプライチェーン・デューデリジェンス法（LkSG）への対応もサポートしています。



バリューチェーン全体で 人権を擁護

グループの価値観の実践

コンパスグループにとって、サステナビリティとは地球環境のみならず、人を大切にすることを意味します。本レポートで紹介した、安全でインクルーシブな職場環境の整備、強靱なサプライチェーンの構築、コミュニティ支援といった取り組みは、当社の事業に関わるすべての人々の人権とウェルビーイングを尊重する姿勢を示すものです。

こうした「人」を中心に据えたアプローチは、当社の事業運営およびバリューチェーン全体での協働のあり方を方向付けています。

当社の取り組みは、コンパスグループ人権ポリシーに基づいて推進されています。このポリシーは、国連ビジネスと人権に関する指導原則やILOの基本条約など、国際的に認知されている基準に準拠しています。

企業責任委員会は、人権と現代奴隷制に対する戦略を監督し、定期的に報告を受けるとともに、毎年その進捗を確認しています。

同時に、専門フォーラムを通じてコンパスグループ全体における協調・監督体制を強化しています。人権ワーキンググループ(HRWG)は、ベストプラクティスの共有や意識向上、グループ全体にわたって地域横断型の協働を推進するためのプラットフォームとして機能しています。同様に、SCRM運営委員会は、SCRMフレームワークを通じた、各グループ会社によるサプライチェーン・リスクの管理を支援し、必要に応じてガイダンス、助言、重点支援などを提供しています。

本レポートで詳述するリーダーシップ研修や労働安全の確保、責任ある調達、サプライチェーンの透明性向上といった取り組みは、いずれも人権尊重の取り組みに資するものです。グループの事業活動とサプライチェーンの双方において、倫理的慣行の促進、意識の向上、そして研修や協働、パートナーとのエンゲージメントを通じた能力の強化を継続して行っています。

こうした継続的な取り組みを支えるため、私たちはスレーブフリー・アライアンスと連携し、人権自己評価ツールを開発しました。このツールを導入すれば、各国が個別に自らの実践を評価することができます。

これに加え、Speak Up, We're Listeningプログラムでは、従業員やパートナーが懸念を表明し、フィードバックを共有することができる秘密厳守の通報手段を提供しています。

これらの取り組みは、学び、協働し、責任ある行動を積み重ねていく継続的なプロセスの一環であり、これからも「人の尊重」を当社の事業運営の中核とする決意を示すものです。詳細については、当社の人権ポリシーと現代奴隷法に関する声明をご参照ください。<https://www.compass-group.com/en/index.html>

人権ワーキンググループ： 人と実践をつなぐ

人権ワーキンググループ(HRWG)は、コンパスグループの各地域・各分野のメンバーを結集し、知見の共有、顕在化しつつあるリスクの検討、そして組織能力の向上を進めています。

2025年には、責任ある採用、労働時間の管理、派遣労働、生体認証を用いた就労資格確認などのテーマを取り上げ、スレーブフリー・アライアンスをはじめとする社内外の専門家による監修のもとで議論を深めました。市場の垣根を越えて人と人をつなぐことで、HRWGはこれらのポリシーを現場に落とし込み、各グループ会社の事業運営の中で継続的な改善を図っています。



アニマルウェルフェア

アニマルウェルフェアの現状

コンパスグループでは、動物をウェルビーイングと苦痛の双方を感じ得る感受性を持つ存在として認識しています。当社のアプローチは、グローバル調達戦略に組み込まれており、Five FreedomやFive Domainsなどの国際的に認知された枠組みに基づいています。

当社のポリシーは、過度な閉じ込めや身体の一部の切除・損傷処置、長距離輸送といった慣行を抑制するとともに、種ごとの行動特性に配慮した飼養環境の充実や、人道的な処分方法の推進を掲げています。

この分野における当社の戦略は以下の5つの柱で構成されています。

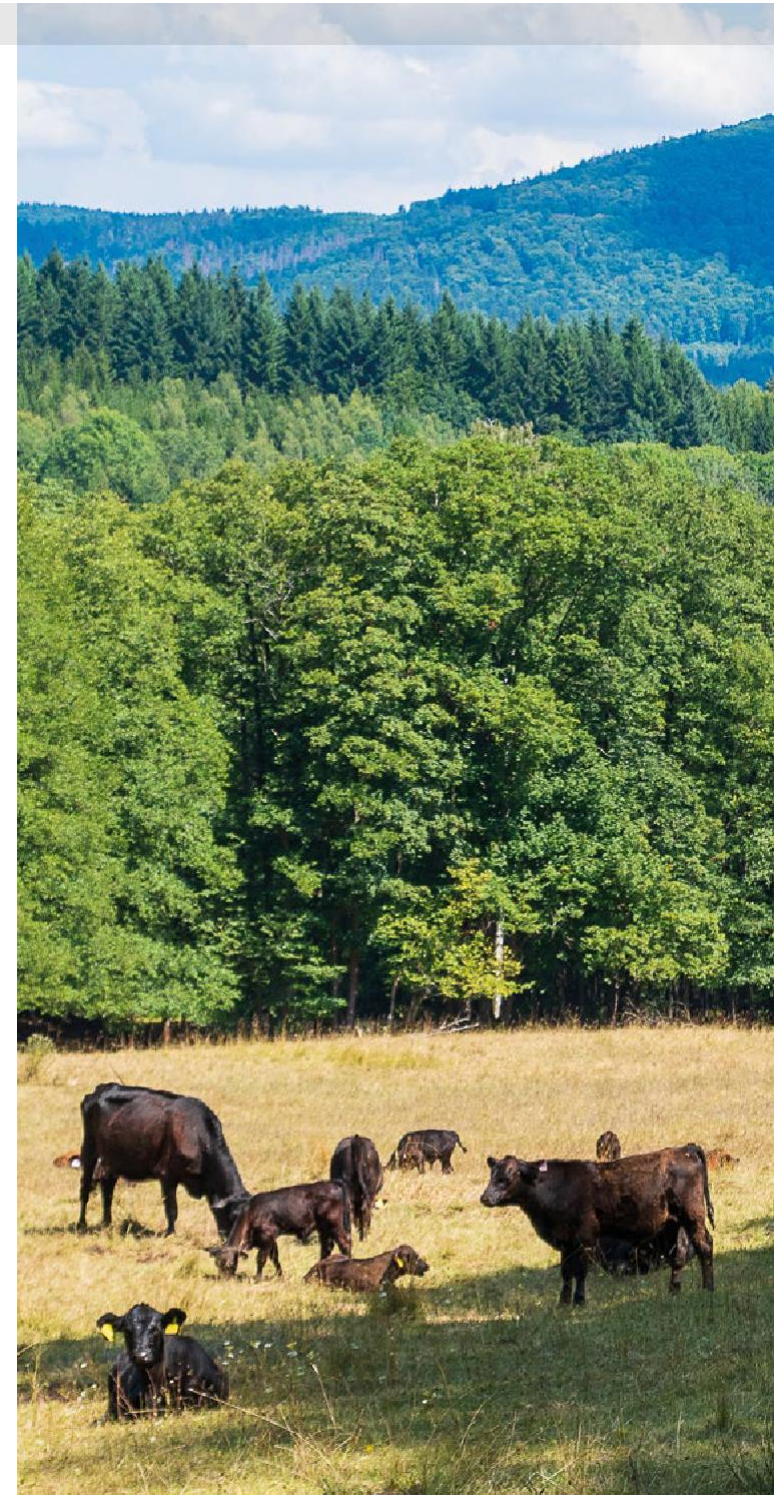
- 1 **教育・研修**—ベストプラクティスを実装するために必要な知識をチームに提供します。
- 2 **サプライヤーとのエンゲージメント**—当社のグローバルサプライヤー行動規範の遵守を求めるとともに、継続的な改善を推進します。
- 3 **パートナーシップとアドボカシー**—NGOとの協働により、世界動物福祉連合 (GCAW) の創設メンバーとして業界基準の改善に尽力します。
- 4 **透明性と報告**—毎年の更新内容を公表し、ステークホルダーとオープンな対話を行います。
- 5 **食品業界におけるリーダーシップ**—植物性のメニューの推進や食品ロスの削減を通じて、動物性タンパク質への依存度を低減します。

この統合的なアプローチを通じて、私たちはアニマルウェルフェアを尊重し、倫理的な調達を支え、よりサステナブルな食料システムの構築に寄与するサプライチェーンの実現を目指しています。ウェルフェアを優先することは、消費者の期待に応えるだけでなく、事業の強靱性を高め、食品の品質向上にもつながります。さらにそれは、「責任あるかたちで優れた食を提供する」という当社のパーパスにも合致します。

小規模農家のケージフリーの卵生産への移行支援—インド

コンパスグループ・インドは、アニマルウェルフェアの向上と小規模養鶏農家の支援を目的に、ケージフリー卵生産への移行を支援する取り組みを主導しています。この取り組みを実現するため、コンパスグループ・インドは、コンパスグループ財団と連携し、同財団から資金提供を受けて、People for Animals Uttarakhandと共同でケージフリー養鶏トレーニングハブを設立しました。この拠点は実証農場であると同時に研修センターとしての機能を担い、農家に高水準のウェルフェア実践に関する実用的な知識を提供するとともに、新たな経済的機会の創出にもつなげています。

さらに、同社は、People for Animals (PFA)、People for Progress in Farming (PPF)、Global Food Partners (GFP)、Happy Hens、Timbaktu Collectiveなどの主要団体と連携し、ケージフリー卵への需要拡大に対応できるよう、農家が必要とする資源や支援を確保するための体制を整えています。このプロジェクトは、責任ある調達、倫理的な調達、そしてグループ各社のサプライチェーン全般にわたって社会と環境に前向きなインパクトをもたらすことへの当社のコミットメントを具現化するものです。



サステナビリティ・ボンドに関する報告

配分状況に関する報告

コンパスグループPLCは、2022年7月に持続可能な金融フレームワーク（以下「フレームワーク」）を策定しました。このフレームワークは、カーボントラストによるセカンド・パーティー・オピニオン・レビューを受けています。詳細は当社ウェブサイトをご覧ください。

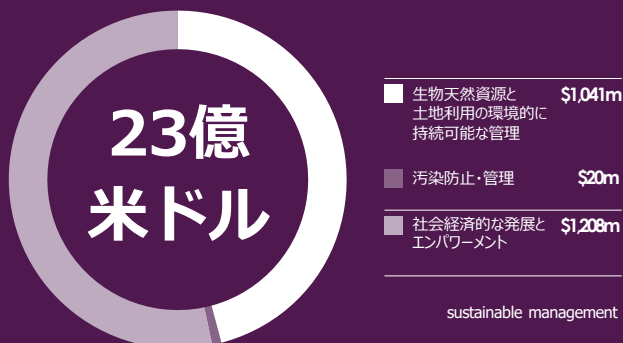
www.compass-group.com/en/investors/debt-investors/sustainable-financing

フレームワークでは、調達した資金の配分先となるサステナブル・プロジェクトを定義しています。これらのプロジェクトは、コンパスグループがサステナビリティの取り組みを進め、気候ネットゼロ目標を世界レベルで達成するために活用されており、または活用される予定です。

調達資金の使途

2025年9月30日時点で、コンパスグループは総額23億ドルのサステナビリティ・ボンドを発行しました。これまで発行したボンドで調達した資金は、すべて配分済みです（下図をご参照ください）。

2022年以降、23億ドルのサステナビリティ・ボンドを発行



詳細な配分内容については付録1をご参照ください。

サステナビリティ・ボンドの発行状況詳細¹

証券コード (ISIN)	発行日	発行体	償還日	利率	発行額 (100万米ドル)	配分割合
XS2528582450	2022-09-08	コンパスグループPLC	2032-09-08	4.375%	317	100%
XS2528582377	2022-09-08	Compass Group Finance Netherlands B.V.	2030-03-08	3.000%	547	100%
XS2758114321	2024-02-06	コンパスグループPLCC	2031-02-06	3.250%	849	100%
XS2895051212	2024-09-16	コンパスグループPLC	2033-09-16	3.250%	556	100%
サステナビリティボンド総発行額					2,269	

1. 表中のサステナビリティ・ボンドはユーロまたは英ポンド建てで発行されました。上記金額は、コンパスグループPLCの2024年度年次報告書に掲載されている米ドル換算額です。

サステナビリティ・ボンドの調達資金は以下のカテゴリーに配分されました。

分類	説明	該当するSDGs
生物天然資源と土地利用の環境的に持続可能な管理	調達資金は、倫理的に取引された認証取得済みのコーヒー・紅茶、認証取得済みのサステナブルシーフードに関する支出に充当されます。この資金は、食品の安全性と品質、事業の誠実性、倫理的な取引、人権の保護、農場におけるアニマルウェルフェア、サステナビリティの面で、当社が定める高い基準を満たしたサプライヤーと協力する、という当社目標の達成に貢献しています。	14 LIFE BELOW WATER 15 LIFE ON LAND
汚染防止・管理	調達資金は、植物性のメニューで肉の代替として使用される、植物由来の商品や原料を購入する資金に充当されます。この資金は、植物由来のメニュー増加への需要を満たすのに役立っています。植物由来のタンパク質は肉よりもカーボンフットプリントがはるかに少ないため、環境に優しいメニューです。	12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION
社会経済的な発展とエンパワーメント	調達資金は、マイノリティや女性が所有・経営する企業や、Bコーポレーションに分類されるサプライヤーが提供する製品の購入に充当されます。この資金は、倫理的でサステナブルなサプライチェーンの構築という当社の目標達成に向けた一助となっています。	8 DECENT WORK AND ECONOMIC GROWTH

インパクト

当社のサステナビリティ戦略は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）のうち、当社が特に大きな影響を与えられる9つの目標への貢献に焦点を合わせています（詳細は本レポートの5ページを参照）。サステナビリティ・ボンドの調達資金は、このうちSDG8、12、14、15に関連したカテゴリーに充当されました。

コンパスグループは、自然と生物多様性の保全に継続的に取り組んでいます。グループ各社は、サプライヤーやパートナーと協力して、要件の浸透を図り、サステナブルな実践を奨励しています。私たち、アニマルウェルフェア、森林破壊、サステナブルな商品などに関するESGトピックをテーマとした強化トレーニングを提供してきました。詳細は本レポートの18、33、35ページをご覧ください。倫理的に取引されたコーヒーや紅茶、サステナブル・シーフードの詳細については、当社ウェブサイトをご覧ください。www.compass-group.com/en/sustainability/performance-and-reports

コンパスグループは、調達戦略全般にインクルーシブな慣行を組み込み、多様なサプライヤーを支援する枠組みを拡大することで、サプライヤーの多様性向上に向けた取り組みを一層強化して参ります。この枠組みやその他の取り組みについては、本レポートの26ページをご覧ください。

付録1:

当社の独立監査法人であるKPMG LLP（以下KPMG）は、保証基準ISAE（UK）3000を使用して、下表の△で示す特定の情報について限定的な保証を行いました。当社ウェブサイトでは、KPMGの限定的保証報告書の全文を公開しておりますので、ご参照ください。www.compass-group.com/en/investors/debt-investors/sustainable-financing

の全文を公開しておりますので、ご参照ください。www.compass-group.com/en/investors/debt-investors/sustainable-financing

生物天然資源と土地利用ポートフォリオ	締結金額 ¹	プロジェクトに占める割合 ²	サステナビリティ・ボンド対象の割合	生物天然資源と土地利用の割合	充当額 ³	充当期間	平均支出期間
サステナブル、フェアトレード、オーガニック、アニマルウェルフェア基準の認証を受けた商品への支出					\$439m	10月19日－9月22日	
					\$249m	10月22日－9月23日	
					\$204m	10月23日－9月24日	
					△\$149m	10月24日－9月25日	
	\$2,269m	100%	100%	46%	\$1,041m		N/A Opex

汚染防止・管理ポートフォリオ	締結金額 ¹	プロジェクトに占める割合 ²	サステナビリティ・ボンド対象の割合	汚染防止・管理の割合	充当額 ³	充当期間	平均支出期間
廃棄物削減関連プロジェクトへの支出					\$20m	10月19日－9月22日	
					\$0m	10月22日－9月23日	
					\$0m	10月23日－9月24日	
					\$0m	10月24日－9月25日	
	\$2,269m	100%	100%	1%	\$20m		N/A Opex

社会経済的な発展とエンパワーメント・ポートフォリオ	締結金額 ¹	プロジェクトに占める割合 ²	サステナビリティ・ボンド対象の割合	社会経済的な発展とエンパワーメントの割合	充当額 ³	充当期間	平均支出期間
マイノリティや女性が所有・経営するサプライヤーやBコーポレーションなど、地元で多様性の高いサプライヤーから購入した製品への支出					\$0m	10月19日－9月22日	
					\$216m	10月22日－9月23日	
					\$871m ⁴	10月23日－9月24日	
					△\$121m	10月24日－9月25日	
	\$2,269m	100%	100%	53%	\$1,208m		N/A Opex

1. 締結金額は、サステナビリティ・ボンドの融資対象となるプロジェクト、プロジェクトのポートフォリオまたはその一部に対して、発行者が法的にコミットした金額を表します。
2. プロジェクトに占める割合は、プロジェクトの総コストのうち、発行者が提供する資金が占める割合を指します。
3. 過去の充当額（2019年10月－2022年9月、2022年10月－2023年9月）は、発行済みサステナビリティ・ボンドの換算レートに合わせて、2024年度末の終値を用いて英ポンドから米ドルに換算したものです。
4. 当社フレームワークでは、サプライヤーと第三者との取引において当社グループのメンバーが代理人となる支出を含めることを想定していなかったため、第三者メンバー支出を除外して再表示しています（従来は第三者メンバー支出の1億2,100万ドルを含めて9億9,200万ドル）。

付録2:

重要事項：フレームワークの21ページ「免責事項」をご参照ください。www.compass-group.com/sustainable-financing

フレームワーク（いかなる名称で言及される場合を含みます）およびその内容（情報、意見、将来の見通しに関する記述）は、サステナビリティ・ボンドの配分に関する本報告にも適用されています。

当社グループの親会社であるコンパスグループPLCは、事業活動を行わない投資持株会社であり、子会社からの配当金を分配可能準備金の源泉としています。

当社の報告は、グローバル・レポーティング・イニシアチブ（GRI）およびサステナビリティ会計基準審議会（SASB）の基準に準拠しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。

www.compass-group.com/en/sustainability/performanceand-reports.

写真クレジット:

Wardie Hellendoorn、23ページ、画像3

Emma's Torch、25ページ

Caroline Dutrey、28ページ

独立第三者保証

KPMG LLPは、保証基準ISAE（UK）3000およびISAE3410に基づき、当社の2025年のサステナビリティ関連報告に含まれる特定のESGデータポイントを対象に、独立した立場から限定的保証を提供しました。（+）マークを付したデータポイントはコンパスグループPLCの2025年度年次報告書に対する保証の一部です。

（Δ）マークを付したデータポイントはコンパスグループPLCのサステナビリティ・ボンドの配分報告に対する保証の一部です。

（×）マークを付したデータポイントはコンパスグループのウェブサイトの「Sustainability Performance & Reports（サステナビリティ・パフォーマンス&報告）」から抽出したものです。

KPMG LLPの限定的保証意見とコンパスの報告手法はコンパスグループPLCのウェブサイトに掲載しています。

www.compass-group.com/en/sustainability/performanceand-reports

コンパスグループPLC

Compass House

Guildford Street

Chertsey

Surrey KT16 9BQ

United Kingdom

イングランドおよびウェールズにて登録済み

登録番号4083914

2025年1月27日

sustainability@compass-group.com

T +44 1932 573 000

www.compass-group.com



Carbon Neutral® Publication Certificate

本証明は以下の事項を証明するものです。

記載された主体は「カーボンニュートラル・プロトコル」に基づき、質の高い環境手段を用いてカーボンニュートラルを達成している。

すべてのクレジットは国際カーボン削減・オフセット同盟（ICROA）が承認する基準に準拠している

認証: CarbonNeutral® publication

期間: 2025年1月1日～2025年12月31日

組織名:コンパスグループPLC

環境証書による相殺量: 1 tCO₂e

タイトル:コンパスグループPLC サステナビリティ・レポート2025

プロジェクト情報: Kulera REDD+ and Cookstoves, Malawi, VCS+CCB

認証番号: CN20250913424

今こそ行動を起こす時です

目的指向型のパートナーとして、
コンパスグループは、ステークホルダーらと共に持続可能な未来を
築き、ネットゼロ目標に向けた歩
みを前進させ、クライアントの環
境・社会目標達成を支援します。